

JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン

(47 都道府県サッカー協会/9 地域サッカー協会向け)

第 10 版 (2021 年 12 月 22 日作成)

公益財団法人 日本サッカー協会

目次

<u>改定履歴</u> P. 2
<u>はじめに</u> P. 3
<u>「JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン」について</u>	
1. <u>ガイドラインの構成</u> P. 4
2. <u>ガイドライン策定の基本方針</u> P. 4
3. <u>ガイドラインの運用方針</u> P. 5
4. <u>コロナ禍におけるサッカー活動の実施の判断にあたって</u> P. 5
5. <u>活動再開にあたっての留意点（各種手引き・チェックリスト）</u> P. 12
<u>(参考) 各団体が発出する各種方針・ガイドライン等</u> P. 57

改定履歴

発行	日付	内容
第1版	2020年5月22日	－
第2版	2020年6月12日	<ul style="list-style-type: none"> ● 5/25 公表の政府方針を踏まえた更新（P.7,8） ● 熱中症の予防に向けた留意点の加筆（P.15）
第3版	2020年7月20日	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部の活動レベルにおける地域間移動にかかる扱いについての更新（P.6,7,15） ● 感染状況悪化に伴う事業実施の考え方の加筆（P.9-12） ● 「新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営の手引き」の改定（P.27-58） ● 健康チェックシートの様式改定 ※これまで3種類(参加チーム用、大会関係者用、メディア用)作成していたフォーマットを1種類に統一
第4版	2020年8月14日	<ul style="list-style-type: none"> ● 8/7 新型コロナウイルス感染症対策分科会提言を踏まえた活動方針の修正（P.6-8） ● 7/23 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長事務連絡を踏まえたイベント開催制限の段階的緩和目安の修正（P.9-11） ● ドブ漬けの扱いについての更新(P.18、チェックシート)
第5版	2020年8月27日	<ul style="list-style-type: none"> ● 8/24 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長事務連絡を踏まえたイベント開催制限の段階的緩和目安の修正（P.9,10）
第6版	2020年9月1日	<ul style="list-style-type: none"> ● 競技会における応援スタイルについて、「禁止される行為」から「手拍子」の項目を削除（P.37）
第7版	2020年10月12日	<ul style="list-style-type: none"> ● 9/11 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長事務連絡を踏まえたイベント開催制限の段階的緩和目安の修正(P.9～13) ● 「新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営の手引き」の修正（P.32、34、38～42、44、49～53、58、チェックシート）
第8版	2020年12月15日	<ul style="list-style-type: none"> ● 共通的留意事項に移動及び宿泊時の留意点を追記（P23～25、チェックシート（競技会運営用））
第9版	2021年1月19日	<ul style="list-style-type: none"> ● 「活動レベル」及び活動レベルに応じた「活動の範囲」の設定を廃止し、新たに「事業の実施における考え方」を提示（主にP.8、9） ※その他本ガイドライン中の活動レベル等の記述は削除/修正 ● 1/7 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長事務連絡で規定する、イベント規模・感染防止策の指針を追加（P.9～11） ● 「新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営の手引き」の修正（P.36、40、42、44、46、52）
第10版	2021年12月22日	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府方針の改定に伴う表現の修正（P.5） ● 政府方針の改定に伴う「新たな活動レベルの考え方」の追加(P.6～11) ● 「トレーニング活動再開に向けた留意点（チーム・指導者向け）」におけるフィジカルガイドラインの記述の加除修正（参照先の追記）（P.21） ● 「新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営の手引き」の修正（P.31、34、35、36、39、44、45、46）

はじめに

2020 年の年初より感染が拡大した新型コロナウイルスの影響により、社会・経済活動が停滞する中、事業者及び関係団体は、今後の持続的な対策を見据え、政府の方針等に基づいて、業種や施設の種別ごとにガイドラインを作成するなど、自主的な感染防止のための取組を進めることが求められており、日本スポーツ協会や日本オリンピック委員会等においても、各種統括団体向けのガイドラインが策定・公表されているところです。

「JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン」（以下、「本ガイドライン」）は、こうした政府の方針や上位団体のガイドラインに基づき策定したものであり、各種の事業を再開するに当たっての道筋や基準を整理し、また、事業再開時及び再開後における感染拡大予防のための留意点を「手引き・チェックリスト」としてまとめたものです。

各都道府県サッカー協会・各地域サッカー協会（以下、「各 FAJ」）及び加盟チームにおかれましては、それぞれにおける事業や活動を実施される際に本ガイドラインを参考いただくとともに、適宜、運動部活動を実施する各学校等にも情報共有として展開ください。また、特に各都道府県協会におかれましては、必要に応じ、本ガイドラインを参考に、地域特性に応じた各都道府県のガイドラインの作成に取り組んでいただきますようお願いします。

なお、本ガイドラインは現段階の上位団体が作成するガイドラインや、得られている知見等に基づき作成しています。今後、これらが改定された場合には、本ガイドラインについても逐次見直すことがあり得ることに御留意ください。

「JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン」について

1. ガイドラインの構成

本ガイドラインは以下の要素により構成されます。

① 活動時の基準

サッカー活動の実施・再開にあたり、その可否を判断する際の考え方・指標などを提示

② 活動時の留意点（各種手引き・チェックリスト）

サッカー活動を実施する際に準備しておくべき事項、配慮するべきポイント等を整理

2. ガイドライン策定の基本方針

本ガイドラインの策定にあたっては以下の項目を基本方針として掲げました。

① 安全最優先

生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最大限に排除した、選手・チーム、指導者、審判、運営スタッフ、それらの方のご家族等、サッカーファミリー全体が安全に活動できる環境を提供する

② 不当な扱い・差別等の禁止

地域の感染状況で生じる活動差をもって選手やチームを不当に扱うことはなく、感染状況に起因する一切の差別や誹謗・中傷の発生を許容しない

③ リスペクト

関わる全ての方を大切に思い、困難な状況にあるサッカーファミリーに手を差し伸べ、笑顔あふれるサッカー環境を再構築すべく全力を尽くす。

④ 「新しい日常」・「新しい生活様式」への適応

Before コロナの「日常」が即座に戻ることは無いということを前提に、置かれた状況の正確な分析・理解に基づくガイドラインを設計する

⑤ サッカー界の抜本的見直し

今回のコロナ禍を契機とし、組織の在り方や個別事業の設計について抜本的な見直しを図る（リスクとチャンス）

3. ガイドラインの運用方針

本ガイドラインについては、以下の考え方に基づき運用されるものとします。

＜本ガイドラインの拘束力＞

本ガイドラインはあくまで、各 FA の活動再開及び各時点において実施し得る活動について、目安として参考すべき留意点等をまとめたものです。そのため、各 FA やチーム等の活動に対して拘束力を持つものではありません。

＜本ガイドラインの適用の優先度＞

本ガイドラインは主に政府の方針や上位団体が作成する指針に基づき、各 FA やチーム等が活動する際に参考にするために作成されたものであることから、その適用にあたっては、その時点での政府及び各自治体の方針や上位団体が作成するガイドラインが優先されるものとします。

※Jリーグや JFL 等トップリーグの開催・運営においては、各団体が別途作成するガイドライン等がある場合はそれらが優先されます

＜運用の際の留意点＞

各 FA やチーム等においては、各地域での事業や活動を実施する際には、まずは当該地域での自治体の方針や指導を遵守いただくとともに、選手等の安全を最優先として、活動の開始時期や事業実施の可否について最終的な判断をいただくようお願いいたします。

＜本ガイドラインの改定＞

本ガイドラインは、政府の方針や上位団体の示すガイドラインに変更があった場合や本協会が必要と判断した場合に改定を行うものとします。

4. コロナ禍におけるサッカー活動の実施の判断にあたって

(1) 活動の前提となるコロナウイルス感染状況のレベルの確認

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会では、新型コロナウイルスの感染状況に応じて 5 つのレベルを設定しています。各 FA においては、それぞれの都道府県が現在いずれのレベルにあるのか、適宜自治体のホームページなどから確認してください。

レベル	状況	対策
4（避けたい）	一般医療を制限してもコロナ対応ができない	<ul style="list-style-type: none">さらなる医療の制限「災害医療」的対策として、国が都道府県を支援・調整
3（対策を強化）	一般医療を相当制限しなければコロナ対応ができない	<ul style="list-style-type: none">大都市圏では緊急事態宣言集中検査、飲食店営業やイベント開催の制限地方部ではまん延防止等充填措置も含めた措置
2（警戒を強化）	新規感染者が増加傾向 病床増で適切に対応できる	<ul style="list-style-type: none">自治体が必要な対策に着手保健所の体制強化病床を段階的に確保感染リスクの高い行動回避を呼びかけ
1（維持すべき）	一般医療が安定的に確保され、 新型コロナにも対応できる	<ul style="list-style-type: none">ワクチン接種の推進医療提供体制の強化基本的な感染対策の継続日常生活・社会経済活動の回復が可能
0（感染者ゼロ）	新規陽性者がゼロ	

（出典）新型コロナウイルス感染症対策分科会資料などから JFA 作成

参考：

各レベルの分類における考え方([新型コロナウイルス感染症対策分科会作成資料](#))

第10回新型コロナウイルス
感染症対策分科会

新たなレベル分類の考え方

I. 新たな考え方

○従来のステージ分類の考え方は、ワクチン接種が行われていない時期における新規陽性者数と医療逼迫との関係の検証を基に新規陽性者数を含めた様々な指標の目安を設定したものであった。

○そうした中、最近になり、国民のワクチン接種率が70%を超え、医療提供体制の強化や治療薬の開発が進んできたことで、新規陽性者数の中でも軽症者の割合が多くなり、重症者としての入院病床の利用も半分以下に減少してきている。

○したがって、新型コロナウイルス感染症との向き合い方について、新たな考え方方が求められる。

○すなわち、医療逼迫が生じない水準に感染を抑えることで、日常生活の制限を段階的に緩和し、教育や日常生活、社会経済活動の回復を促進すべきである。

○一方で、地域の状況を個別に見ると新規陽性者数と医療逼迫との関係は都道府県によって大きく異なり、新規陽性者数の目安を全国一律には設定できない状況になってきている。

○このことから、各都道府県が、各地域の感染の状況や医療逼迫の状況を評価し、必要な対策を遅滞なく講じる必要が出てきた。

○今回の新たな提言ではレベルを5つに分類するが、具体的に目指すべきは、安定的に一般医療が確保され、新型コロナウイルス感染症に対し医療が対応できている状況（レベル1）であり、その維持のためには、以下(1)-(3)の対策を進めることが必要になる。

(1) ワクチン接種率の更なる向上及び追加接種の実施
(2) 医療提供体制の強化（治療薬へのアクセス向上を含む）
(3) 総合的な感染対策の継続

①個人の基本的感染防止策
②検査体制の充実及びサーベイランスの強化（国民の感染状況把握のための抗体検査等）
③積極的疫学調査の徹底（感染源調査及びワクチン・検査の戦略的実施等）
④様々な科学技術の活用（二次元バーコード（QRコード）、COCOA、健康観察アプリ、二酸化炭素濃度測定器（CO₂モニター）等）
⑤飲食店の第三者認証の促進

○なお、医療提供体制の強化に関しては、常に医療機関と自治体が認識の一一致に努め、最悪の状況も念頭に事前準備を行い、感染拡大の状況などを踏まえて、段階的に進める体制を構築する必要がある。

第10回新型コロナウイルス
感染症対策分科会

新たなレベル分類の考え方

II. 新たなレベル分類

○今回の5つのレベル分類の考え方とは、感染の状況を引き続き注視するが、医療逼迫の状況により重点を置いたものであり、都道府県ごとに感染の状況や医療逼迫の状況等を評価するためのものである。

○各レベルで必要な対策を機動的に講じるタイミングについては、各都道府県が“予測ツール”^(※1)及びこれまで用いてきた様々な指標^(※2)の双方を用いて総合的に判断する必要がある。

(※1)公開されている予測ツールやその他の推計。なお、予測に際しては、感染者数が少ない場合や予測時点が遅い場合には、精度が低くなることにも注意が必要である。
(※2)新規陽性者数、今週先週比、PCR陽性率、病床使用率、重症病床使用率、入院率、自宅療養者数及び療養等調整中の数の合計値、重症者数、中等症者数、感染経路不明割合等のその他の指標の推移。中等症者数の状況については、各自治体のデータや国立感染症研究所の推計値等を参考に、新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーホードにおいて公表していく予定である。

レベル0（感染者ゼロレベル）

○新規陽性者数ゼロを維持できている状況である。
○大都市圏では感染が持続していても、都道府県によっては新規陽性者数がゼロの状況が在り得る。

【求められる対策】
○「I. 新たな考え方」において示した(1)-(3)の対策を行う必要がある。

レベル1（維持すべきレベル）

○安定的に一般医療が確保され、新型コロナウイルス感染症に対し医療が対応できている状況である。
○このレベルを維持し、マスク着用など「I. 新たな考え方」において示した(1)-(3)の対策を継続すれば、教育や日常生活、社会経済活動の段階的な回復も可能になる。

【求められる対策】
○「I. 新たな考え方」において示した(1)-(3)の対策を行う必要がある。

新たなレベル分類の考え方

第10回新型コロナウイルス
感染症対策分科会

レベル2（警戒を強化すべきレベル）

- 新規陽性者数の増加傾向が見られ、一般医療及び新型コロナウイルス感染症への医療の負荷が生じはじめているが、段階的に対応する病床数を増やすことで、医療が必要な人への適切な対応ができる状況である。
- このレベルでは、短期間にレベル3に移行する可能性があることから、様々な指標^(※2)を注視しつつ、警戒を強化する必要がある。
- 特に大都市圏でレベル2になった場合には、地方部への感染拡大を抑制するための施策を準備する必要がある。

【警戒強化のための状況の見える化】

- 都市部や地方部に関わらず、各都道府県は、地域の実情に合わせて、以下(1)-(2)に示す方法も用い、その時点の感染や医療の状況及びその後の予測について見える化を進める必要がある。
 - (1) 感染及び医療の状況についての“予測ツール”や上記の様々な指標^(※2)の利用
 - (2) 保健所ごとの感染状況の地図^(※3)などの利用
(※3)厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーポードで提示していく。
- レベル1からレベル2への移行の指標及び目安は、地域の実情に合わせて、保健所の逼迫も考慮し、病床使用率や新規陽性者数も含め、各都道府県が具体的な数値を設定することが考えられる。
- なお、地方部ではクラスターが少しでも発生すると新規陽性者数の急激な増加につながることが考えられることから、特に、医療提供体制が脆弱な自治体ではレベル2への移行を早期に検討する必要がある。
- その際、新規陽性者数自体は、これまでと同じ値であったとしても、ワクチン接種率の向上等により、これまでよりも医療への負荷が小さくなっていることに留意する必要がある。

【求められる対策】

- 各都道府県は、上記の見える化を通して感染の状況を定期的に予測し、以下のような対策を講じることが必要となる。
- 自治体は人々が感染リスクの高い行動を回避するように呼びかけを行う必要がある。また、自治体は、感染拡大防止のために必要な対策を講じると共に、保健所が逼迫しないように保健所の体制強化を行う必要がある。
- さらに、都道府県は、感染や医療の状況を踏まえ、医療機関と協力して、この時点で必要な病床を段階的に確保していく必要がある。レベル2の最終局面では、一般医療に制限を加えつつも、レベル3の最終局面において必要となる病床の確保に向け準備を行う必要がある。その際、都道府県は、コロナ医療として、オンライン診療の積極的な利用も含め、入院療養、宿泊療養及び自宅療養を一体化的に運用していく必要がある。
- その他、国及び都道府県はレベル3で行う対策の準備を進める必要がある。

3

新たなレベル分類の考え方

第10回新型コロナウイルス
感染症対策分科会

レベル3（対策を強化すべきレベル）

- 一般医療を相当程度制限しなければ、新型コロナウイルス感染症への医療の対応ができず、医療が必要な人への適切な対応ができなくなると判断された状況である。
- レベル3に移行すると“強い対策”を講じる必要が出てくる。
- このレベル3は、“強い対策”を講じるという意味においては、これまでのステージの考え方^(※4)の概ねステージ3の最終局面及びステージ4に当たる。

(※4)「感染再拡大（リバウンド）防止に向けた指標と考え方に関する提言」（令和3年4月15日提言）。

【対策強化のタイミング】

- レベル2で用いた“予測ツール”及びその他の様々な指標^(※2)に基づき、「3週間後に必要とされる病床数」を都道府県ごとに推計する。
- レベル2からレベル3への移行については、この「3週間後に必要とされる病床数」が各自治体において確保病床数に到達した場合又は病床使用率や重症病床使用率が50%を超えた場合に、都道府県が総合的に判断する。その際には、感染状況その他様々な指標^(※2)も併せて評価する必要がある。

【求められる対策】

- 国及び都道府県は、自治体及び事業者、国民に対して、強い呼びかけを行う必要がある。
- 大都市圏では都道府県を越えた社会経済圏が一体の地域について広域的に“強い対策”を講じることが必要になる。その際の“強い対策”には、病床の更なる確保に加え、例えば、緊急事態措置以外にも、感染拡大防止のために、クラスターが生じている場所や集団に対する集中的な対策（ワクチンや検査の戦略的かつ集中的な実施、飲食店やイベントの人数や時間の制限、対面授業の自粛要請等）を講じることが考えられる。なお、社会経済活動の制限緩和のためのワクチン・検査パッケージの利用については、状況に応じ、継続運用や停止を検討することも必要である。
- 一方、地方部では感染状況が多様であることから、まん延防止等重点措置も含め各地域にふさわしい効果的な対策を講じる必要がある。
- 国は、都道府県の医療逼迫の状況等を総合的に判断して、感染拡大防止策及び医療提供体制の強化など必要な措置を機動的に講じる必要がある。

レベル4（避けたいレベル）

- 一般医療を大きく制限しても、新型コロナウイルス感染症への医療に対応できない状況である。
- 具体的には、このレベル4では、各自治体の最大確保病床数を超えた数の入院が必要となってくる。この段階になると集中治療の再配分等も現場で検討せざるを得なくなる。

【求められる対策】

- 医療逼迫の状況によっては、都道府県及び医療の現場の判断に基づき、更なる一般医療の制限や積極的疫学調査の重点化などを含めた対応が求められる。国においては、災害医療的な対応として都道府県の支援及び都道府県間の調整を行うとともに、国民に対しても医療の状況について周知する必要がある。

III. 強化された対策の解除

- レベル3で強化された対策については、「緊急事態措置解除の考え方」（令和3年9月8日提言）で示した以下の“医療逼迫に関する指標”に基づき解除を行う必要がある。

(1) 新型コロナウイルス感染症医療の負荷

- ①病床使用率：50%未満。
 - ②重症病床使用率：50%未満。
 - ③入院率：改善傾向にあること。
 - ④重症者数：継続して減少傾向にあること。
 - ⑤中等症者数：継続して減少傾向にあること。
 - ⑥自宅療養者数及び療養等調整中の数の合計値^(※5)：大都市圏では60人/10万人程度に向かって確実に減少していること。その他の地域でも特に療養等調整中の数が減少傾向又は適正な規模に保たれていること。
- (※5)保健所の逼迫の指標。当該指標については各地域の療養者への対応の在り方についての考え方も踏まえて評価すること。なお、今後、自宅療養者について、日々、自宅に於いて臨床医のオンライン等による診療が受けられるようになった場合には、60人/10万人程度よりも高い値を自安として判断することも考えられる。

(2) 一般医療への負荷^(※6)

- ①救急搬送困難事案：大都市圏では減少傾向又は解消。
- (※6)実務的・技術的に全国一律の把握や指標化が難しいとしても、今後、ICUの新型コロナウイルス感染症患者とそれ以外の患者の利用状況など、医療システム全体を総合的に評価していくことが必要である。

(3) 新規陽性者数^(※7)

- 新規陽性者数については、2週間ほど継続して安定的に下降傾向にあることが前提となる。
- (※7)大都市圏では、(1)⑥自宅療養者数及び療養等調整中の数の合計値の60人/10万人程度は新規陽性者数の50人/10万人程度に相当すると考えられる。

(2) 事業の実施における考え方

コロナ禍における事業の実施にあたっては、大きく下記の考え方に基づき、事業の実施主体FAが適切に対応を判断してください。

- 政府が発信する方針や通知、及びそれらを踏まえた各自治体、教育委員会、上位団体等からの要請に応じて、各事業主体FAが事業の実施有無や参加対象者の範囲を判断する
- 事業が2つ以上の自治体間をまたぐ場合には、各自治体の感染状況及びそれぞれの自治体、教育委員会等が発信する要請等を踏まえ、関係者間で協議の上、事業の実施可否等を判断する
- 事業を実施する場合は、当該都道府県、市区町村がいずれのレベルにある場合でも、本ガイドラインや各種手引き、各機関が提示する指針等に基づき、感染予防対策を徹底する
- 緊急事態宣言が発出された場合において、特に学校の休校やイベントの開催自粛など、サッカー関連事業に大きな影響を及ぼす強い要請がある場合には、積極的に事業の中止や延期を判断する

なお、上記に関して政府等が発信する主な方針等は以下のものが挙げられます。

(1) **新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針**（新型コロナウイルス感染症対策本部）

政府や地方公共団体、医療関係者、専門家、事業者を含む国民が一丸となって、新型コロナウイルス感染症対策をさらに進めていくため、今後講じるべき対策を現時点で整理し、対策を実施するに当たって準拠となるべき統一的指針を示すものです。スポーツ活動も含めた大きな方針がこちらで示されます。

本方針は緊急事態宣言発出などに伴い、改定が隨時行われますので、常に最新のものを把握するよう留意してください。

※対策本部HPでは過去のものも含めて資料が掲載されているため最新版を確認してください

(2) **内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室からの通知**

主に「内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長 事務連絡」として、緊急事態宣言の

発出に伴う基本的対処方針の改定等に合わせて、都道府県知事や関係省庁宛に発出されるものであり、催物（イベント等）の開催制限や、施設の使用制限等についてもこちらの文書にて具体的な指針が示されます。

※推進室HPでは各種資料と混在して掲載されているため検索の際はタイトルを確認ください

③ 関係省庁からの通知

①や②の各種方針や通知等を踏まえ、関係省庁が主に都道府県知事等をはじめ、制度上所管する機関や、関連団体に対して通知を行います。部活動を含むスポーツの関係では、[文部科学省もしくはその外局であるスポーツ庁からの通知](#)が主なものとなります。

④ 各自治体・教育委員会等からの通知

上記①、②、③を踏まえて、各都道府県や市区町村の自治体・教育委員会、スポーツ統括団体等が各種学校、スポーツ団体等に対して通知が発出されます。特に部活動を含む学校活動の運用における方針などについては、同じ上位機関の指針を受けたものであっても、自治体によって取り扱いが異なる場合がありますので、事業の実施を検討する場合は必ず自地域の自治体の方針について確認するよう留意ください。

（3）事業実施時の規模の考え方と感染防止策

事業実施における規模については、政府が示す指針に基づいて事業主体FAが適切に参加者数等の調整を行ってください。また、規模に応じた感染防止策として、政府の指針にて示されるもののほか、本ガイドラインの各種手引きに記載するものを合わせて実行するよう努めてください。

別紙1,2 内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室長事務連絡

「[基本的対処方針に基づくイベントの開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について](#)」（令和3年11月19日）

感染状況に応じたイベント開催制限等について				別紙1
		安全計画策定（注1）		その他 (安全計画を策定しないイベント)
下記以外 の区域	人数上限（注3）	収容定員まで	5,000人又は収容定員50%のいずれか大きい方	
	収容率（注3）	100%（注2）	大声なし：100% 大声あり：50%	
重点措置 地域	時短	原則要請なし（注4）	原則要請なし（注4）	
	人数上限（注3）	20,000人 (ワクチン・検査パッケージ制度の適用により、収容定員まで追加可)	5,000人	
	収容率（注3）	100%（注2）	大声なし：100% 大声あり：50%	
緊急事態 措置区域	時短	原則要請なし（注4）	原則要請なし（注4）	
	人数上限（注3）	10,000人 (ワクチン・検査パッケージ制度の適用により、収容定員まで追加可)	5,000人	
	収容率（注3）	100%（注2）	大声なし：100% 大声あり：50%	

※遊園地など集客施設等については、上記の緊急事態措置区域、重点措置区域と同様の制限を適用する。

（注1） 参加人数が5,000人超かつ収容率50%超のイベントに適用（緊急事態措置区域、重点措置区域においては、5,000人超）

（注2） 安全計画策定イベントでは、「大声なし」の担保が前提

（注3） 収容率と人数上限でどちらか小さいほうを限度（両方の条件を満たす必要）

（注4） 都道府県知事の判断により要請を行うことも可能

イベント開催等における必要な感染防止策

別紙2

項目	基本的な感染対策
①飛沫の抑制（マスク着用や大声を出さないこと）の徹底	<p>□飛沫が発生するおそれのある行為を抑制するため、適切なマスク（品質の確かな、できれば不織布）の正しい着用や大声を出さないことを周知・徹底し、そうした行為をする者がいた場合には、個別に注意、退場処分等の措置を講じる</p> <ul style="list-style-type: none"> * 大声を「観客等が、⑦通常よりも大きな声量で、④反復・継続的に声を発すること」と定義し、これを積極的に推奨する又は必要な対策を施さないイベントは「大声あり」に該当することとする。 * 大声を伴う可能性のあるため収容率を50%とする場合でも、常に大声を出すことは飛沫防止の観点から望ましいものではないため、対策を徹底すること。 * 飛沫が発生するおそれのある行為には、大声での会話を誘発するような、大音量のBGMや応援なども含む。 * 適切なマスクの正しい着用については、厚生労働省HP「国民の皆さまへ（新型コロナウイルス感染症）」参照。
②手洗、手指・施設消毒の徹底	<p>□こまめな手洗や手指消毒の徹底を促す（会場出入口等へのアルコール等の手指消毒液の設置や場内アナウンス等の実施）</p> <p>□主催者側による施設内（出入口、トイレ、共用部等）の定期的かつこまめな消毒の実施</p>
③換気の徹底	<p>□法令を遵守した空調設備の設置による常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上・1回に5分間以上）の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> * 室温が下がらない範囲での常時窓開けも可。 * 屋外開催は上記と同程度の換気効果と想定。 * 必要に応じて、湿度40%以上を目安に加湿も検討。
④来場者間の密集回避	<p>□入退場時の密集を回避するための措置（入場ゲートの増設や時間差入退場等）の実施</p> <p>□休憩時間や待合場所での密集を回避するための人員配置や勤線確保等の体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> * 入場口・トイレ・売店等の密集が回避できない場合はキャビティに応じて収容人数を制限する等、最低限人と人が触れ合わない程度の間隔を確保する。 <p>□大声を伴わない場合には、人と人が触れ合わない間隔、大声を伴う可能性のあるイベントは、前後左右の座席との身体的距離の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「大声あり」の場合、座席間は1席（立席の場合できるだけ2m、最低1m）空けること。
⑤飲食の制限	<p>□飲食時における感染防止策（飲食店に求められる感染防止策等を踏まえた十分な対策）の徹底</p> <p>□食事中以外のマスク着用の推奨</p> <p>□長時間マスクを外す飲食は、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、可能な限り、飲食専用エリア以外（例：観客席等）は自粛</p> <ul style="list-style-type: none"> * 発声がないことを前提に、飲食時以外のマスク着用担保や、マスクを外す時間を短くするため食事時間を見短縮する等の対策ができる環境においてはこの限りではない。 <p>□自治体等の要請に従った飲食・酒類提供の可否判断（提供する場合には飲酒に伴う大声等を防ぐ対策を検討）</p>

項目	基本的な感染対策
⑥出演者等の感染対策	<p>□有症状者（発熱又は風邪等の症状を呈する者）は出演・練習を控えるなど日常からの出演者（演者・選手等）の健康管理を徹底する *体調が悪いときは医療機関等に適切に相談。</p> <p>□練習時等、イベント開催前も含め、声を発する出演者やスタッフ等の関係者間での感染リスクに対処する。 *練習時等であっても、適切なマスクの正しい着用、出演者やスタッフ等の関係者間の適切な距離確保、換気、必要に応じた検査等の対策が必要。</p> <p>□出演者やスタッフ等と観客がイベント前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる（誘導スタッフ等必要な場合を除く）</p>
⑦参加者の把握・管理等	<p>□チケット購入時又は入場時の連絡先確認やアプリ等を活用した参加者の把握 *接觸確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービス（BluetoothやQRコードを用いたもの等）を活用。 *原則、参加者全員に対してアプリダウンロードまたは、氏名・連絡先等の把握を徹底。</p> <p>□入場時の検温、有症状（発熱又は風邪等の症状）等を理由に入場できなかった際の払戻し措置等により、有症状者の入場を確実に防止 *チケット販売時に、有症状の場合は早めに連絡・キャンセルすることを周知すること。 □時差入退場の実施や直行・直帰の呼びかけ等イベント前後の感染防止の注意喚起</p>

（補足）これまでの「活動レベル」及び各レベルにおける「活動の範囲」の取り扱いについて

第8版までのガイドラインにおいて示していた、各感染拡大ステージに連動し設定する「活動レベル」及び各レベルにおける「活動の範囲」については、緊急事態宣言の発出の際に各機関・自治体等より要請される、各種の活動やイベントの開催にかかる制限・留意点などがその時の宣言によって変動することや、関係者の尽力によるサッカー活動現場における各種感染防止策の実行・定着等の状況を踏まえ、一律の文言等をもって行動や活動を規定することが実情にそぐわないと判断し、廃止することといたします。

本ガイドラインを参照される方々におかれでは、今後、これまで以上に、政府及び各自治体等が示す指針等の把握に努め、内容を十分に理解した上で、それぞれの活動の実施について適切な対応をいただくようお願いいたします。

（4）感染状況悪化に伴う事業実施の考え方

新型コロナウイルスの感染状況は、季節や新型株の発生などにより常に変化します。感染状況が悪化する場合には、自治体の方針等を踏まえ、各地域FA・47FAでの事業の実施について、本ガイドライン基本方針に立ち返り、安全最優先で事業の継続・延期・中止等を再検討くださいますようお願いいたします。

＜前提＞

ガイドライン策定の基本方針

- ・安全最優先
- ・不当な扱い、差別等の禁止
- ・リスペクト
- ・「新しい日常」「新しい生活様式」への適応
- ・サッカー界の抜本的見直し

＜感染状況の把握＞

感染状況の悪化にともない、当該地域・都道府県がどのレベルに該当するかについては、当該FAが属する自治体の示す警戒レベル（警報・アラート等）を解釈し、各FAにて主体的に判断し、感染状況を把握いただくようお願いします。

5. 活動再開にあたっての留意点 (各種手引き・チェックリスト例)

- 各種活動の再開に当たっての共通的留意事項 P. 1 3
- トレーニング活動再開に向けた留意点（チーム・指導者向け） P. 2 0
- 新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営の手引き及び
チェックリスト・健康チェックシート例 P. 2 4
- 講習・研修会主管 FA 用 新型コロナウイルス対応版チェックリスト例 P. 5 4
- 審判員・審判指導者用（試合参加時）新型コロナウイルス対応版チェックリスト例 P. 5 5
- フットボールセンター管理 FA 用 新型コロナウイルス対応版チェックリスト例 P. 5 6

各種活動の再開に当たっての共通的留意事項について

各種活動の再開に当たって、政府の新型コロナウイルス感染症対策本部が作成する「[新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針](#)」や、公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会作成の「[スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン](#)」に掲げられる「基本的考え方」に基づき、各事業の実施における共通的な留意事項を整理しました。各 FA 及び各チームの責任者の方におかれましては、原則全ての事業において下記のポイントを踏まえた対応を行っていただけようお願いします。

また、当該共通的留意事項とは別に、競技会や研修会などの事業によって個別に手引きやチェックリストを作成しておりますので、隨時合わせて参考ください。

なお、各種活動の再開においては、当該活動が実施される都道府県の方針に従うことが大前提であり、開催や実施の判断に迷われた際は、JFA にお問い合わせいただくとともに、開催地や施設が所在する都道府県のスポーツ主管課や衛生部局等へご相談ください。

＜参加者の安全を最優先にした行動を＞

本ガイドラインの基本方針にも「安全最優先」として掲げる通り、**各都道府県における活動の再開にあたっては、何よりもまず参加者の人命や健康を最優先にした事業の計画・実行を行っていただこうお願いいたします。**緊急事態宣言が解除された地域や都道府県知事から自粛要請が解除された地域においても、感染予防に向けて取り得る十分な環境が整えられない場合は、参加者・スタッフの安全を第一にして、イベント等の延期や中止の判断を積極的に行ってください。

＜不当な扱い・差別等を許容しない＞

現在、残念ながら、国内外で感染者や診療に携わった医療機関・医療関係者その他の対策に携わった方々に対する誤解や偏見に基づく差別、誹謗中傷の例が複数報告されていますが、**サッカー界は、このような差別等※の発生を一切許容せず、断固たる姿勢で臨みます。**各 FA におかれましても、現場や SNS 等でこうした事象が発生した場合は決して容認することなく強い態度で制止していただき、行為が続くようであれば毅然とした対応をお取りくださいようお願いいたします。

なお、こうした差別等の予防という観点でも、イベント等参加者に新型コロナウイルスの感染者が発生した場合の個人情報等の取り扱いには十分配慮してください。

※ここでいう「差別等」には、活動現場や SNS 上での感染者等に対する差別的な発言・態度のようなものだけでなく、例えば、コロナ感染を避けるために選手がチーム活動への参加を、もしくは、チームが大会等への参加を一時的に辞退する/したことを理由として、チームの指導者が当該選手を、または、事業主催者が当該チームを不適に扱うことなども含まれます

1. 事前の対応

事業主体 FA は、事業実施会場において感染防止対策に向けた準備を行うとともに、参加者に対し、感染防止のために選手・スタッフが遵守すべき事項を明確にして事前に連絡し協力を求めることが重要です。大会などにおいては FA 及び参加チームはそれぞれ感染対策責任者を設置し、イベント等の事前、当日、事後にお互いが連絡を取り合える環境を構築してください。

参加者への連絡事項

事業主体 FA がイベント・競技会等への参加者に対して事前に求める感染拡大防止のための措置として、以下の項目が挙げられます。FA の感染対策責任者は適切な手段により参加者やチームの感染対策責任者に事前に連絡をとり、以下の項目を伝えてください。また運営に関わる役員、会場スタッフ、ボランティア、メディアその他関係者全員に対しても同様に事前伝達してください。

なお、以下の項目の実行が難しいと判断された場合は、開催都道府県おいて集会・イベントの開催が許可された状況下にあっても、イベント等の中止・延期を検討頂くようお願いします。

(1) 以下の事項に該当する場合の自主的な参加の見合わせ（イベント等当日に書面にて確認）

- 体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる
- 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

(2) イベント等参加者全員のマスク着用

(3) 事業主体 FA が示す注意事項の遵守

(4) スポーツイベント終了後に新型コロナウイルス感染症を発症した場合の速やかな報告

(5) イベント中に誰とどのくらいの距離で何分くらい話したか、その時にマスクを着用していたかなど、他人との接触状況の記憶（感染者発生発覚の際の濃厚接触者特定に役立ちます）

2. 会場における感染防止対策

事業主体 FA は、以下の点に留意して会場の設営・運営を行ってください。

(1) 諸室・テント等

イベント等で使用する諸室等において、以下の対応を行ってください。

- 各部屋にアルコール消毒液を設置する。
- 全てのドア及び窓を開け、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ。
- ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは使用しない。
- 飲食売店の運営は、安全対策に十分配慮した上で判断する。運営する場合において、ドブ漬けを使用する際は下記事項を徹底すること。なお、アルコール類の販売は当面は行わない。
 - i. ドブ漬けに手を入れる店員を事前に決め、健康チェックシートで体調管理を徹底する
 - ii. ドブ漬けに手を入れる店員は、紙幣や小銭等の金銭の授受を担当しない
 - iii. ドブ漬けに入れる飲料に他の人が手を触れた場合は、流水等で十分に洗浄する
 - iv. ドブ漬けは購入者が手を入れられない場所に設置する

- 座席を設置する際に前後左右1.5~2m間隔をあけ、お互いが正面に座らないよう配慮する。
- 喫煙所は設けない。

(2) 手洗い場所

イベント参加者や関係者が手洗いをこまめに行えるよう、以下の対応を行ってください。

- 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹼を用意する。
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。（布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること。）
- アルコール消毒液を設置する。

(3) トイレ

トイレについても感染リスクが比較的高いと考えられることから、事業主体FAは、以下の対応を行ってください。

- 便器の蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- 手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹼を用意する。
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。（布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること。）

(4) 更衣室・ロッカールーム

イベントや競技会で更衣室やロッカールームを使用する場合、3つの密が揃うため、感染リスクが比較的高くなります。事業主体FAは、これを踏まえ、更衣室・ロッカールームについて以下の準備を行ってください。

- 広さにはゆとりを持たせ、利用者同士が密になることを避けること。
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する、別室を用意する、または外部にテントを設置する措置を講じる。
- 室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については消毒する。
- 換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を常時開放して換気を行う。

更衣室等利用者の注意事項

- 利用者はマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- 利用者はロッカールームの滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- 利用者はシャワーを交代で使用し、密集を避ける。

(5) 参加者が運動・スポーツを行う際の留意点

事業主体FAは、イベント等の参加者に対し、以下の留意点や利用者が遵守すべき内容を周知・徹底することが求められます。

① 十分な距離の確保

競技の種類に関わらず、運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離（2mが目安）を空けること。（介助者 や誘導者の必要な場合を除く。）強度が高い運動・スポーツの場合は、呼気が激しくなるため、より一層距離を空ける必要があること。また、マスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること。

② 位置取り

走る・歩くイベントにおいては、前の人々の呼気の影響を避けるため、可能であれば前後一直線に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取ること。

③ その他

ア 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと。

イ タオルの共用はしないこと。

ウ 飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとて対面を避け、会話は控えめにすること。また、同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みはしないこと。

エ 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外（例えば走路上）に捨てないこと。

(6) メディア対応における注意事項

- イベント等の取材申請を事前に締め切ることにより、会場に合わせた3密を避けるための取材者の人数調整が可能となり、取材者に事前に感染防止対策を周知できます。
- イベントを取材するメディアに対しても、1. 事前の対応「参加者への連絡事項」に記載されている内容を遵守するように事前に伝えてください。
- 代表質問を行うなど、取材者の人数も必要最小限となるように調整し、取材者は取材対象者から2mの距離を、取材者同士は最低1m間隔を保つよう声掛けをしてください。また、できるだけ短時間で取材を終えるよう、取材者に対して事前に依頼してください。
- 健康チェックシート[※]を事前に送付し、当日受付で提出してもらってください。
- 競技会におけるメディア対応の詳細については、別途作成する「新型コロナウイルス影響下における競技会・試合運営の手引き」をご確認ください。

※健康チェックシートへの記載事項

- ① 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号、Email アドレス※個人情報の取扱いに十分注意）
- ② イベント当日の体温
- ③ 競技会前 2週間における以下の事項の有無
 - 平熱を超える発熱
 - 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状
 - だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - 臭覚や味覚の異常
 - 体が重く感じる、疲れやすい等
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去 14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

(7) ゴミの廃棄方法

イベント会場等で発生したゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用してください。ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄してください。マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹼と流水で手を洗い、手指消毒してください。

(8) 夏季における熱中症予防に向けた留意点

気温が高くなる夏季においては、各諸室の窓やドアの開放、参加者にマスク着用を義務化することなどにより、熱中症を発症するリスクが高まることから、感染拡大防止に向けた取組に併せて熱中症の予防も行う必要があります。事業主体FAは、P.21に記載の「[スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について](#)」を参照するとともに、政府が示す「[新しい生活様式](#)における熱中症予防行動のポイント」に基づく下記の点などに留意して各種活動を実施してください。

① マスクの着用

マスク（特に外気を取り込みにくいN95などのマスク）の着用時は、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、体感温度の上昇など、身体に負担がかかることがあるため、参加者に対してはこうしたリスクを周知するとともに、こまめな水分補給を心がけることを徹底してください。また、高温や多湿といった環境下では、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクを外しても構わない旨アナウンスをしてください。

② エアコンの使用について

諸室等においてエアコンを使用する場合も、新型コロナウイルス対策のためには、冷房時でも窓開放や換気扇によって換気を行う必要があります。換気により室内温度が高くなる場合があるため、エアコンの温度設定を下げるなどの調整をしてください。

③ 涼しい場所への移動について

参加者に対しては、少しでも体調に異変を感じたら、速やかに涼しい場所に移動するようアナウンスしてください。なお、会場の関係で、医務室等の諸室にすぐに入ることができない場合は、屋外でも日陰や風通しの良い場所への移動を促せるよう事前の準備をしておいてください。

(9) その他

これら（1）～（9）を実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。事業主体のFA及び参加チームは、その点を理解した上で、各イベント等の実施や参加をしていただくとともに、関係者の周知を行ってください。

3. 移動・宿泊

競技会やイベントの事業主体FA及びその参加者は、各イベント等の参加にあたり、移動や宿泊が発生する場合は以下の点に留意して対応してください。

（1）移動

① 飛行機、新幹線

i. 飛行機

航空機内は、空気が約3分で、すべて入れ替わる換気のよい空間であるが、可能な限り座席の間隔を空けることやマスクの着用など感染対策は万全に行う

ii. 新幹線

新幹線の車内も、6～8分ですべての空気が入れ替わるが、可能な限り座席の間隔を空けることやマスクの着用など感染対策は万全に行う

② バスによる長距離移動

i. バス会社への事前の依頼事項

- 事前に車内を消毒する
- 運転手の体調管理し、マスク、手袋を着用する

ii. バス車内での社会的距離

- バス内は密をさけるよう人数を極力減らし、着席する席の間隔を空ける（目安：定員50%まで）
- 長時間（2時間以上等）移動の場合、複数台のバスにより密にならない状況を作るなどを検討する

iii. その他の注意事項

- バス内ではマスクを着用する
- 1時間につき3回の換気を推奨として、窓を開けて換気する
- サービスエリア等での休憩時もマスクを着用し、感染予防に務める

③ 近距離の移動

i.近距離の場合の参加者の移動は、可能な限り公共交通機関の利用を避け、バス、乗用車等を利用する。尚、会場の駐車場利用については主管FAの指示に従うこと

ii. 移動に際して、以下の点に留意する

- マスクを着用する
- 長時間（2時間以上等）移動の場合、複数台に分乗して選手間の社会的距離（できるだけ2m、最低1m）の確保を検討する
- 1時間につき3回の換気を推奨として、窓を開けて換気する

④ 移動中の食事

i.電車又はバスの車内は手狭であり、食事の際、マスクを外すことになるため、感染及び濃厚接触を防ぐ観点から、移動中には食事を慎むことが推奨される。

ii.移動中に食事をとらざるを得ない場合、以下例のとおり感染防止に十分配慮する。

- 車内でできるだけ距離をとる。また対面ですわらない
- 車内の換気に留意する
- 食事をする者以外は、マスクをする
- 食事の直前に手指消毒を行う（手指衛生剤を車内に携行し、使用する）
- 食事は、できるだけ短時間で済ませる

(2) 宿泊

実施する競技会やイベントにおける宿泊の要否については、事業主体FAが主体的に判断を行ってください。その上で宿泊を伴う場合は、事業主体FAは、イベント等に参加するチーム・団体・個人等に対し、以下の留意点や遵守すべき内容を周知・徹底することが求められます。

① 接触による感染リスクからの回避

宿泊施設の従業員や利用客との接触を減らし、感染リスクを減らす工夫をする

- i.施設単位またはフロア単位での貸し切りを検討する
- ii.動線（共用の廊下やロビー等）、エレベーターについては、時間を指定することも検討する
- iii.時間指定等により食事会場を参加者の団体の専用とすることができますか検討する
- iv.参加者が使用する部屋は事前に消毒、換気する（宿泊施設への依頼）
- v.参加者の不在時に清掃する、または、清掃しないことも選択肢となる

② 手指消毒液の設置

参加者が訪れる各所に手指消毒液を設置する

（食事会場、マッサージルーム、ミーティングルーム、廊下（フロア等を専有する場合）、その他）

③ チーム・団体の行動規範

- i.自室以外ではマスクを着用する
- ii.エレベーターのスイッチや階段の手すりに、素手で触れないようにする
- iii.ホテルのサウナ、フィットネスルーム、バー等に立ち入らない

④ 部屋割り

- i.個室を基本に、可能な限り絞った人数での宿泊とし、密を避けて設定する（対応できない場合は、参加者の対策や体調管理を徹底する）
- ii.部屋の換気を良くする（温度21度、湿度50～60%が推奨される）

⑤ 食事

- i.座席は、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保し、向かい合わせの配席はしない
- ii.十分に広い部屋がない場合、グループを分けて食事時間をずらす
- iii.食事は一人ずつ取り分けた状態で用意する
- iv.食事中、宿泊施設の方は部屋にいないようにし、片付けは食事終了後に行う
- v.ビュッフェ形式は、取り分けにより感染リスクが想定されることから見合わせる

⑥ ミーティング

- i.可能な限り、WEB会議システムの利用を検討する
- ii.対面にて実施する場合、部屋の換気に留意する
- iii.参加者は社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保して着席する

4. 事後対応

万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、イベント等当日の参加者から取得した書面や健康チェックシートを、保存期間（少なくとも1ヶ月）を明記した上で保存しておくようにしてください。

また、スポーツイベント終了後に、参加者から新型コロナウィルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、開催自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておくことが必要です。

トレーニング活動再開に向けた留意点（チーム・指導者向け）

1. 日常のトレーニング及び練習試合における「感染予防」のためのチェックリスト

チーム・指導者用 新型コロナウイルス対応チェックリスト

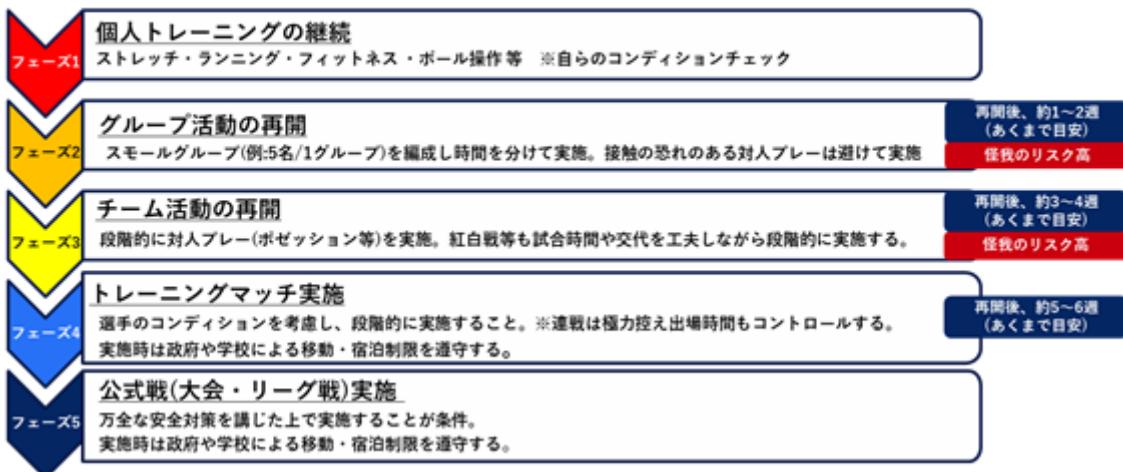
シーン	項目	チェック欄	備考
1 事務準備	(1) チーム内で必ず感染対策責任者を定め、所属協会・連盟担当者の連絡先を把握する。 (2) 活動する上で注意事項を把握する全ての方と共有し理解してもらう。（不安がある場合は参加を見送る） (3) チーム内選手・スタッフの健康管理表を入手し、活動日までの健康チェックを行なう。 (4) 選手が未成年の場合は、保護者が活動内容を理解しておき、参画を了承している。（了承しない場合は無理に参加させない。） (5) マスクを着用する。 (6) 作業の交換や公休の機会時にラッシュ時や混んでいる場面を避ける。 (7) 窓を開ける等、換気がよくなれる工夫をする。 (8) 切符や貰い物、使用指針を読む。その際に使用した指で目を触らない。 (9) 電車・バスなどの公共交通機関内において、常に他の人との距離を保ち、会話を控える。 (10) 目的に応じて着替り、脱ぎ替えて、手すりなどに触れた手を洗浄、消毒。力をこめる。 (11) 喫煙はせず、できる限り吸煙を解消する。		
2 往復の移動	(1) 選手・指導者・スタッフ以外はマスクを着用する。 (2) 選手・指導者・スタッフは健康チェック一チームごとに感染対策責任者に提出する。 (3) 着替えを必ず済ませ、更衣室が早く出る。		
3 トレーニング・試合前	(1) 選手・指導者・スタッフはマスク以外はマスクを着用する。 (2) 選手・指導者・スタッフは健康チェック一チームごとに感染対策責任者に提出する。 (3) 着替えを必ず済ませ、更衣室が早く出る。 (4) 衣類はなるべく薄手で、吸汗性の綿素材で作成する際も肌面についてしっかりと配慮する。 (5) ハンドルの握手部の距離を離す。 (6) サイクルの把手の距離に注意を払う。 (7) 水を濁さない水栓で水を濁さない。 (8) ハンドルの運転手は自転車がない。 (9) タイヤの外側を洗浄する手は自転車がない。 (10) ハンドルの洗浄用具は自転車がない。 (11) ハンドルの洗浄用具は自転車がない。 A-29-4A 交代・返却時、試合終了時の対応		
4 トレーニング・試合中	(1) 衣類に付着する落葉や手を使い、拭いてしまう。 (2) 選手交代時に必ずもろみ道を使い、ひらめきをする。 (3) 選手の体温の確認、選手料金会話をするとともに、もろみ道にてもろみの距離には十分に配慮する。 ■抜いた選手を他の選手が手で触れない距離はない。また、ハンドルに直接選手を移動させる際は、他の選手が手で直接選手を触れない距离を確保する。例：他の選手がハンドルに直接選手を触れない距離を確保する。例：他の選手がハンドルに直接選手を触れない距離を確保する。 (4) ハンドルを必ず清潔に保つ。例：他の選手がハンドルに直接選手を触れない距離を確保する。例：他の選手がハンドルに直接選手を触れない距離を確保する。 (5) メディカルスタッフはラップスワップを活用する。 (6) 試合中のハンドル、選手料金の操作、選手手帳ハンドルへの接觸は行わない。 (7) 衣類はなるべく薄手で、吸汗性の綿素材で作成する。 (8) 着替えを必ず済ませ、更衣室が早く出る。		
5 トレーニング・試合後	(1) シャツの羽根についてロードランナーを組んで交代で遊びの工具をする。 (2) 着替えを必ず済ませ、更衣室が早く出る。 (3) 試合会場から一旦脱い、丁度同時に状態を整らせるが、持ち戻る。 (4) 手洗いの流れを確認する。		
6 撤毛後の過ごし方	(1) 手洗いの流れを確認する。 (2) パンツの着用を確認する。 (3) 携帯と共に記念写真を撮る。 (4) 中井に就寝し、十分な睡眠時間確保する。 (5) 携宅封印以降に、いつから感染者が出た場合は、感染者対策責任者に連絡かその旨伝える。		
7 事後対応	事後調査		
	(1) 手洗い槽には必ずU型の液体または泡沫洗剤を用意すること (2) 「手洗いは30秒以上」の掲示を表示すること (3) 手洗い槽に手紙袋止めのバータブル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（利用前にマイタオルの持参を求めてもらいたい） (4) 手洗いゲージル液は、アコール等の手指消毒薬用液を使用すること		
	更衣室、宿泊施設入室		
	(1) 床に付いたり拭き、他の利用者に伝わることを避けること（神奈川県の介助を行なう場合を除く） (2) 空きを持たせること（靴の場合は、一度入室する利用者の数を考慮する等の措置を講じること） (3) 室内にはハンドルの消毒液または泡沫洗剤を用意すること (4) 排気扇を回す。換気用の穴を開けたり等、換気口に通すなど (5) スタッフが利用する場合は、入浴室の前に手洗いをする		
	洗面所		
	(1) ハンドル内の器具が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、ごまごとに消毒すること (2) ハンドル蓋や開閉する部分では、表面を清潔に保つこと (3) 手洗い場には必ずU型の液体または泡沫洗剤を用意すること (4) 「手洗いは30秒以上」の掲示を表示すること (5) 手洗い槽に手紙袋止めのバータブル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（利用前にマイタオルの持参を求めてもらいたい）		
	入浴・更衣室の管理		
	(1) 利用時にボート用具を持参してもらうよう要請すること (2) やむを得ず共用するボート用具については、手が回転し触れる箇所を工夫して鏡面化した上で、ごまごとに消毒すること (3) スポーツ用具の購入を行う場合は、購出本件に利用者を特定できる工夫をすること		
	出走前便に消毒すること		
	顧客の管理		
	(1) 通常の顧客も、乗せさせ場合には、顧客が密な状態にならないよう、必要な方に応じ、あるいは顧客距離の最も狭いものとの対応をとること (2) 大声での会話は控えなくていい会話を控えても、会話をする場合はマスクを使用すること等の細密事項を周知すること		
	運動・スポーツを行なう際の協議		
	(1) 呼吸装置を運転する際は、定期的に内気を取り入れる際の換気を行なう (2) 体育館の床を拭き、清掃する (3) 体育館等の施設においても、密な状態にならないようにする		
	顧客の入口		
	(1) 手前の消毒設備を設置すること (2) 清洗用用具の利用者が遵守すべき事項のチェックリストを提示すること		
	清掃・消毒		
	(1) 市販されている糞便消毒剤や有効漂白剤を利用して消毒すること (2) 通常の清掃後は、不特定多数がいる環境表面を、始業前、終業後に消毒消臭すること		
	その他		
	(1) 運動・ボート用具の衛生管理等として飲食物を利用者に提供する際は、以下などを配慮して適切に行なうこと (2) 利用者が飲食を利用する際に、手洗い、手袋着用を行なうよう要請すること (3) スポーツリーグ等の実施規則について、ハンドル・ビニール・ゼリ・虫や虫の捨て紙、カブ提供すること (4) 飲食室を設置する場合はマスクを着用させること		

2. 「段階的なトレーニング再開」のための留意点（コンディショニングの観点から）

＜各フェーズにおけるトレーニング及び活動内容＞

活動再開におけるタイムラインを5段階のフェーズに分類しました。

※以下のフェーズはあくまで選手の身体的負荷を考慮した参考情報となります。



＜段階的なトレーニング再開にあたっての基本情報＞

サッカーファミリーの 心と体の健康のために

フィジカルフィットネスプロジェクトより
指導者のみなさまへ

子どもたちは、思っている以上に活動自粛期間中の
運動不足により基礎的な体力が低下しています

【持久力】

マラソンのような持久力よりも
ダッシュ等を反復して繰り返す
ための回復能力が大きく低下!!

【筋力】

持久力ほどではないが
筋力も低下
体重増加の可能性もあり

サッカーに必要な体力

ダッシュ、ターン、キックなどを行う「筋力」
それらを繰り返せる「持久力（回復能力）」

自主トレ（ジョギング程度）だけでは、サッカーに必要な体力は低下

これらを「段階的」に高めないと「ケガ」につながる可能性大

【「段階的」に高めていく】

- トレーニング時間
- トレーニング強度
- トレーニング要素の種類

【長期休み明けTRの注意点】

- トレーニング時間の長さ
- トレーニング強度の高さ
- 急激な時間と強度の増加

- 早く体力を取り戻そうと焦る必要は全くありません
じっくりと時間をかけて子どもたちに必要な体力を戻しましょう

- 成長期なので個人のペースに合わせましょう。セット間、
セッション間のインターバル（休憩時間）をしっかりとり、
水分補給などで回復してからトレーニングしましょう

- オフ明け後は、ケガのリスクが増大します
⇒トレーニングのやり過ぎに注意して段階的に進めましょう！

ケガの予防についてはJFAホームページ内、11+もご参照ください

<https://www.jfa.jp/medical/11plus.html>

2020年5月



JFAではサッカー活動再開のためのフィジカルガイドラインを策定しています。

これまでの情報も含めて集約・随時更新しておりますのでご参照ください。

3. スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について (公益財団法人日本スポーツ協会資料より)

これから暑い日が続きます。これまでの新型コロナウイルス感染症対策とあわせて、熱中症予防対策が必要となります。特に、これまでの外出自粛の影響により、体力の低下や暑さに慣れていないこと、そして、マスクをつけてスポーツを行うと熱放散が妨げられることから、通常よりも熱中症のリスクが高くなっていますので、より注意が必要となります。

スポーツ活動再開時の 新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツ医・科学委員会委員長 川原 貴

新型コロナウイルスの主な感染経路は、接触感染と飛沫感染だと考えられています。そのため、スポーツ活動時の対策としては、いわゆる三つの密を避けることはもちろん、次のことが重要です。

- 周囲の人と距離を空ける
- こまめに手洗いあるいはアルコール消毒を行う
- スポーツ活動に支障のない範囲でマスクを着用する



さらに、スポーツ活動再開時は、以下についての配慮が必要となります。

- 1) 体力低下と暑熱順化に配慮する^{※1}
これまでの外出自粛の影響により体力が低下していること、暑さへ慣れていないことが想定されます。これらは熱中症発症のリスク要因となるため、スポーツ活動を再開する場合はくれぐれも無理のないよう慎重に、運動強度を調節し、適宜休憩をとり、適切な水分補給を心がけてください。
- 2) 日頃の体調管理と体調チェックを徹底する^{※2}
体調が悪いと体温調節機能が低下し、熱中症につながります。日頃から睡眠、食事をしっかりとり、生活リズムを整えるなど体調管理に配慮するとともに、スポーツ活動を行う前に必ず体調をチェックするように心がけてください。このことは、スポーツ活動中の熱中症予防はもちろん、新型コロナウイルス感染症対策にもつながります。
- 3) マスクを着用できない場合は
周囲の人との距離を十分に空ける^{※3}
スポーツ活動中も飛沫の拡散を予防するため、できるだけマスクを着用することが望されます。ただし、マスクをつけてスポーツを行うと呼吸がしづらくなるため、これまでよりも運動強度を落として行うよう心がけてください。激しい運動を行うなどマスクが着用できない場合は、周囲の人との距離を十分に空けるよう心がけてください。

※1 スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック（日本スポーツ協会）
熱中症予防対策としては、基本的にはこれまでと同じです。スポーツによる熱中症事故は、適切に予防さえすれば防げるものです。熱中症予防の原則として「スポーツ活動中の熱中症予防 5ヶ条」としてまとめています。
<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide01>



※2 安全に屋内・屋外で運動・スポーツをするポイントは？（スポーツ庁）
新型コロナウイルス感染症対策に関するスポーツを行う際のポイントとして、1) 運動やスポーツを始める前に行うこと（体調チェック）、2) 感染予防のための基本的な対応、3) 運動・スポーツの種類ごとの留意点がまとめられています。
<https://www.mext.go.jp/sports/content/000050039.pdf>



※3 スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン（日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会）
新型コロナウイルスへの感染防止策として、1) スポーツの種類に関わらず、スポーツをしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離を取ること、2) 飲食については、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにすること、3) スポーツを行っていない間にマスクを着用すること（スポーツ活動中は可能な範囲でマスクを着用すること）などが定められています。
<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4158>



JSPO
Japan Sport Association

4. スポーツ活動の意義（JFA の理念・ビジョン・バリュー）

新型コロナウイルスの影響下で活動が制限されていますが、活動の意義をもう一度確認しましょう。

【JFA の理念】

心身の健全な発達

【JFA のバリュー】

エンジョイ：スポーツの楽しさと

喜びを原点とすること

この時期だからこそ、

スポーツ活動をする喜びや大切さがあります。

スポーツを楽しみ、喜びを感じ、心身の健全な

発展につなげましょう！



新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営の手引き

本手引きは、JFA 主催の国内競技会（全国大会等）を開催するにあたり、新型コロナウイルスの感染症対策の詳細な部分を想定して設定しています。

競技会・試合運営に携わる皆様に本手引きの内容を理解していただき、主管 FA、参加チーム、審判員を中心に連携をはかりながら、円滑な運営につなげていただき、試合成立へ向けてご協力くださいますようお願い申し上げます。

1. 事前の対応

主管 FA は、会場において感染対策の準備を行うとともに、参加チーム、審判員、メディア等に対し感染防止のために遵守すべき事項を明確にして事前に連絡し協力を求めることが重要です。

(1) 感染対策責任者の設置

主管 FA 及び参加チームは、事前、試合日、事後にお互いが連絡を取り合える環境を構築するため、それぞれ感染対策責任者を設置する。

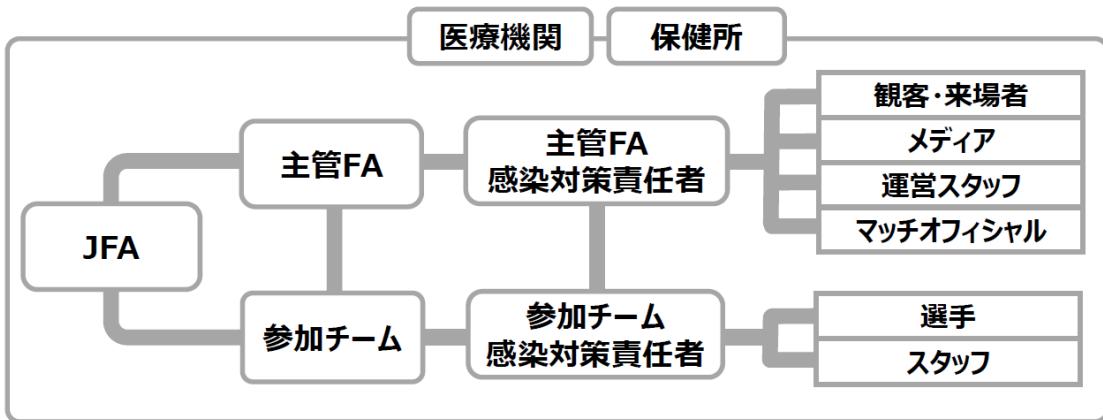
-1. 感染対策責任者の主な作業内容

主管 FA 及び参加チームの感染対策責任者の主な作業は以下のとおりとし、感染対策が実行されているかを確認し、改善を要する場合、その旨指示する。

主管 FA	<ul style="list-style-type: none">① 競技会運営における感染対策の立案、必要に応じてチェックシートの見直し② 競技会運営関係者および参加チーム、メディア等への感染対策計画の周知③ 手指消毒液設置の確認<ul style="list-style-type: none">・手指消毒液の設置確認および切れていないか、不足箇所がないか適宜巡回し確認する④ 関係者の体調管理の把握<ul style="list-style-type: none">・チーム、審判団の体温を記入したものを管理・その他関係者の体温を記入したものを管理・体温計の管理（動作等）⑤ 入場ゲートにおいて<ul style="list-style-type: none">・機器の管理、指導、作業チェック（サーモグラフィー、非接触体温計等の備品管理やスタッフの配置等）
参加チーム	<ul style="list-style-type: none">① 移動、競技会期間中における感染対策の立案② 選手、チーム役員、その他関係者への感染対策の周知③ 手指消毒液設置の確認<ul style="list-style-type: none">・手指消毒液の設置確認および切れていないか、不足箇所がないか確認する④ 関係者の体調管理の把握<ul style="list-style-type: none">・選手、チーム役員の体温を記入したものを管理、提出⑤ 入場ゲートにおいて<ul style="list-style-type: none">・選手、チーム役員全員の体温測定協力⑥ 換気の励行<ul style="list-style-type: none">・移動、控室、ミーティングルームでの換気

-2. 参加者への連絡

感染対策措置として、JFA、主管 FA は以下項目からなる感染対策ルールを事前に連携して伝えます。主管 FA 感染対策責任者は、参加チーム感染対策責任者、事前申請したメディア等の対応をします。また、運営に関わる運営スタッフ、ボランティア、その他関係者全員に対しても同様に事前に伝えます。



(2) 感染対策ルール

競技会および試合運営に関わる方々は、以下の事項を遵守する。

-1. 感染対策ルール

- ① 自主的に参加を見合させる（以下の事項に該当する場合）
 - ・ 体調が良くない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）
 - ・ 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ② マスクを着用する
- ③ 咳エチケットに十分配慮する
- ④ 手洗い、手指消毒をこまめに行う
- ⑤ 社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する
- ⑥ 3 密（密閉、密集、密接）を避ける
- ⑦ 握手、抱擁などは行わない
- ⑧ フィールド上での唾・痰吐き、うがい等は絶対にしない
- ⑨ タオル、飲料ボトルなどの共用はしない
- ⑩ 健康チェックシートの提出
- ⑪ その他 JFA、主管 FA が示す注意事項を遵守する

-2. 参加対象者の特定（健康チェックシート提出予定者の特定）

参加チームは、3 週間前に競技会または試合に参加、帯同する選手、チーム役員等の対象者を特定し、用紙の配布等により健康チェックシートへの記入準備を開始する。

JFA、主管 FA は、必要に応じて参加チームより対象者リストの提出を求める。

-3. 健康チェックシート

以下事項を記載した健康チェックシートを回収し、健康状態について問題のないことを確認する。

- ① 氏名、生年月日、住所、連絡先（電話番号、Eメールアドレス）
 - ・個人情報の取扱いに十分注意する
- ② 競技会または試合開催 2週間前から当日までの体温
- ③ 競技会または試合前 2週間ににおける以下の事項の有無
 - ・平熱を超える発熱
 - ・咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状
 - ・だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - ・臭覚や味覚の異常
 - ・体が重く感じる、疲れやすい等
 - ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

-4. 参加可能な健康状態について

競技会 または 試合開催 2週間前から当日までの健康状態において 発症 及び 症状消失の状況が認められた場合、以下①および②の両方の条件を満たす状況であれば出場、参加が認められる。

- ① 発症後に少なくとも 8 日が経過している
- ② 薬剤*を服用していない状態で、解熱後および症状**消失後に少なくとも 3 日間が経過している
 - *解熱剤を含む症状を緩和させる薬剤
 - **咳・咽頭痛・息切れ・全身倦怠感・下痢など

※8 日が経過している：発症日を 0 日として 8 日間のこと

※3 日が経過している：解熱日・症状消失日を 0 日として 3 日間のこと

尚、上記に該当しない場合であっても PCR 検査または同等の検査(Smart Amp 法検査等)により陰性が確認されれば、参加可能とする。

対象者への対応は以下のとおりとし、上記に該当しない場合は、各感染対策責任者が対応し、参加を自粛させ、最終的に主管 FA 感染対策責任者が情報を把握する。

選手、チーム役員：当該チーム感染対策責任者

運営スタッフ、メディア：主管 FA 感染対策責任者

期間計算のイメージ図

発症日から8日間経過し、かつ、症状消失後3日間経過した場合、参加可能

0日	1日	…	8日	…	X日	X+1日	X+2日	X+3日	参加可能
発症		…		…	症状消失				

3日間

[ケース]

	0日	1日	…	8日	…	10日	11日	12日	13日
A	-13日	-12日	…	-5日	…	-3日	-2日	-1日	0日
	発症		…		…	症状消失			参加可能

	0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日
B	-8日	-7日	-6日	-5日	-4日	-3日	-2日	-1日	0日
	発症					症状消失			参加可能

	0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日
C	-8日	-7日	-6日	-5日	-4日	-3日	-2日	-1日	0日
	発症		症状消失						参加可能

-5. 乳幼児のマスク着用の考え方

日本小児科学会の見解（乳幼児のマスク着用の考え方）

- ① 乳幼児のマスク着用には危険があります。特に2歳未満の子どもでは、気をつけましょう
- ② 乳幼児は、自ら息苦しさや体調不良を訴えることが難しく、自分でマスクを外すことも困難です
- ③ また、正しくマスクを着用することが難しいため、感染の広がりを予防する効果はあまり期待できません
- ④ むしろ、次のようなマスクによる危険性が考えられます
 - ・呼吸が苦しくなり、窒息の危険がある
 - ・嘔吐した場合にも、窒息する可能性がある
 - ・熱がこもり、熱中症のリスクが高まる
 - ・顔色、呼吸の状態など体調異変の発見が遅れる

特に、2歳未満の子どもではこのような危険性が高まると考えます。子どもがマスクを着用する場合は、いかなる年齢であっても、保護者や周りの人が注意が必要です。感染の広がりの予防はマスク着用だけではありませんので、保護者とともに集団との3密を避け、人の社会的距離を保つことも大切なことです。

(3) チームの移動

参加チームは、以下の点に留意して対応してください。

また、JFA、主管 FA は、以下の点に留意して対応します。

-1. 飛行機、新幹線

- ① 考え方

- ・チームは常に健康状態をモニタリングしている集団であり、チーム単位での移動により感染対策を万全にする

② 航空機

- ・航空機内は、空気が約3分で、すべて入れ替わる換気のよい空間です
- ・当面、機内での距離をとった配席運用になるとされています

③ 新幹線

- ・新幹線の車内も、6~8分ですべての空気が入れ替わる

-2. バスによる長距離移動

① バス会社への事前の依頼事項

- ・事前に車内を消毒する
- ・運転手の体調管理し、マスク、手袋を着用する

② バス車内での社会的距離

- ・バス内は密をさけるよう人数を極力減らし、着席する席の間隔を空ける（目安：定員50%まで）
- ・長時間（2時間以上等）移動の場合、複数台のバスにより密にならない状況を作るなどを検討する

③ その他の注意事項

- ・バス内ではマスクを着用する
- ・1時間につき3回の換気を推奨として、窓を開けて換気する
- ・サービスエリア等での休憩時もマスクを着用し、感染予防に務める

-3. 近距離の移動

① チームの移動は、可能な限り公共交通機関の利用を避け、バス、乗用車等を利用する

尚、会場の駐車場利用については主管FAの指示に従うこと

② 移動に際して、以下の点に留意する

- ・マスクを着用する
- ・長時間（2時間以上等）移動の場合、複数台に分乗して選手間の社会的距離（できるだけ2m、最低1m）の確保を検討する
- ・1時間につき3回の換気を推奨として、窓を開けて換気する

-4. 移動中の食事

① 感染及び濃厚接触を防ぐ観点から、移動中には食事を慎むことが推奨される。

・理由は、電車又はバスの車内は狭く、食事の際にマスクを外すことになるため

② 移動中に食事をとらざるを得ない場合、以下例のとおり感染防止に十分配慮する。

- ・車内でできるだけ距離をとる。また対面せずわらう
- ・車内の換気に留意する
- ・食事をする者以外は、マスクをする
- ・食事の直前に手指消毒を行う（手指衛生剤を車内に携行し、使用する）

- ・食事は、できるだけ短時間で済ませる

(4) チームの宿泊

参加チームは、感染リスクを回避するため以下の点に留意して対応します。

また、JFA、主管 FA は、必要に応じて以下の点に留意して対応します。

-1. 接触による感染リスクからの回避

宿泊施設の従業員や利用客との接触を減らし、感染リスクを減らす工夫をする

- ① 施設単位またはフロア単位での貸し切りを検討する
- ② 動線（共用の廊下やロビー等）、エレベーターについては、時間を指定することも検討する
- ③ 食事会場をチーム専用とすることができますか検討する
- ④ チームが使用する部屋は事前に消毒、換気する（宿泊施設への依頼）
- ⑤ チームの不在時に清掃する、または、清掃しないことも選択肢となる

-2. 手指消毒液の設置

チームが訪れる各所に手指消毒液を設置する

（食事会場、マッサージルーム、ミーティングルーム、廊下（フロア等を専有する場合）、その他）

-3. チームの行動規範

- ① 自室以外ではマスクを着用する
- ② エレベーターのスイッチや階段の手すりに、素手で触れないようする
- ③ ホテルのサウナ、フィットネスルーム、バー等に立ち入らない

-4. 部屋割り

- ① 可能な限り絞った人数での宿泊とし、密を避けて設定する（対応できない場合は、選手同士の体調管理を徹底する）
- ② 部屋の換気を良くする（温度 21 度、湿度 50～60%が推奨される）

-5. マッサージルーム

- ① 室内を混雑させないよう留意し、換気を良くする
- ② 順番が来るまで室内に立ち入らない
- ③ マスク、手袋等を用いて、感染を予防する
- ④ トレーナーは、マスク・手袋・手指消毒など標準予防対策をとった上で対応する
- ⑤ 手袋の手配が難しい場合等、1 行為 1 手洗い（アルコールジェルでの刷り込み含む）をしっかり行う

-6. 食事

- ① 選手の席は、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保し、向かい合わせの配席はない

- ② 十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらす
- ③ 食事は一人ずつ取り分けた状態で用意する
- ④ 食事中、宿泊施設の方は部屋にいないようにし、片付けはチームが退出した後に行う
- ⑤ ビュッフェ形式は、取り分けにより感染リスクが想定されることから見合わせる

-7. ミーティング

- ① 試合前を除き可能な限り、WEB会議システムの利用を検討する
- ② 対面にて実施する場合、部屋の換気に留意する
- ③ 監督、コーチ、選手が、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保して着席する

(5) 会議・セレモニーの計画

感染防止のため、競技会開催にあたり付帯して行われる以下の会議やセレモニーの実施方法を検討する。

-1. 監督会議／代表者会議

監督会議、代表者会議を実施する場合は、以下の点に注意して対応する。

- ① 3密を避けるため、原則としてWEB会議システムにて開催する
- ② WEB会議システムでの開催が難しい場合は、参加チームへの連絡事項・注意事項等をメールで展開するなど、大勢の人数が一堂に会して3密にならないよう工夫する
- ③ ユニフォーム決定は、競技会開催前に参加チームよりユニフォーム写真を提出してもらい、その試合で着用する正副いずれか一方をJFAが事前に決定して参加チームに通知する

-2. 開会式

開会式を実施する場合は、以下の点に注意して対応する。感染対策により実施しないことも検討する。

- ① WEB会議システムにて開催する
- ② 屋外、フィールド等にて行い、簡略化して行う
- ③ 登壇者、運営スタッフは、マスクを着用する
- ④ 握手は行わない
- ⑤ 集合写真の撮影は行わない

-3. 表彰式

表彰式を実施する場合は、以下の点に注意して対応する。感染対策により実施しないことも検討する。

- ① トロフィーは表彰プレゼンターとチームを代表した選手が、距離（2m以上）を置いて立ち、授与のみ行う
- ② 賞状は表彰プレゼンターとチームを代表した選手が、距離（2m以上）を置いて立ち、読み上げをせずに、授与のみ行う

- ③ メダル掛けを行う場合は、プレゼンターからの授与は行わず、テーブルの上等にメダルを設置し、受賞者（役員・選手）が自身でメダルを取り首に掛ける
 - ④ 表彰プレゼンター、運営スタッフは、マスクを着用する
 - ⑤ 握手は行わない
- ※プランを立てておいて、その時の情勢を見て判断する

2. 会場管理における感染対策

(1) 試合の開催方法

感染対策により安全に試合を行うには、以下 2 つの方法があります。

-1. 無観客試合（リモートマッチ）

無観客試合（リモートマッチ）は、来場者の人数を極端に少なくすることで、感染リスクを抑えることができます。

-2. 制限付きの試合（無料試合又は有料試合）

政府方針や自治体のガイドラインに従い、イベント開催規制が緩和されれば、一般的な来場者、ファン・サポーターに対して一部の制限付きにより観戦機会を提供することも可能になります。

以下項目の実行が難しい場合は、開催地自治体において集会、イベントの開催許可された状況下にあっても、無観客試合（リモートマッチ）の開催を検討します。

(2) 3 つのゾーン分け

会場内を 3 つのゾーンに分け、以下の目的により互いの接触を避ける動線管理を行います。

- ① できるだけ来場者の人数を少なくすることで、感染リスクを抑える
- ② ゾーン分けしておくことで、感染者が出た場合の影響範囲を限定する
- ③ とくに選手、チームスタッフと接触する可能性を最小化する

ゾーン 1	競技関連	・ピッチ及びピッチ周辺(テクニカルエリアを含む) ・選手入場口 ・選手及び審判員の更衣室
ゾーン 2	運営・メディア関連	・運営諸室 ・記者席を含むメディアスタンド
ゾーン 3	スタジアム外縁を含む来場者エリア（指定管理エリア）	

(3) 無観客試合（リモートマッチ）

来場者の人数を極端に少なくすることで、感染リスクを抑えることができます。

-1. ゾーン毎の動線管理

会場規模、来場者数を予測して対応する。

- ① ゾーン毎の動線を設定し、人と人の接触を限定する
- ② とくにチームとその他の方の接触を最小限に留めるために、ゾーン 1 動線の独立性に留意する
※チーム、審判員、メディア及び関係者、それぞれの動線を分散させることにより、1 力所に集中することによる密集・密接を避け、感染リスクを回避する

-2. 無観客試合（リモートマッチ）に来場できる方

ゾーン毎の来場者の人数を減らし、特に「ゾーン 1：競技関連」への来場者を限定する

1	両チーム 選手、チーム役員	12	警備員、係員
2	審判員	13	TV 中継関係者
3	マッチコミッショナー	14	JFA・両チームオフィシャルカメラマン
4	審判アセッサー	15	メディア（ペン記者、カメラ、ENG）
5	主管 FA スタッフ	16	他チームのスカウティングスタッフ
6	ボールパーソン	17	スカウティング映像制作会社
7	担架要員	18	ドーピング検査スタッフ
8	記録要員	19	警察・消防
9	演出・進行スタッフ	20	会場関係者（グラウンドキーパー等）
10	大型映像装置オペレーター	21	運営会社（看板、装飾等）
11	会場ドクター/看護師		

但し、上記以外の試合運営上の役割がある場合に限り、試合の1週間前までに主管FAに届けることとする

-3. 無観客試合（リモートマッチ）への来場をご遠慮いただく方

22	ファン・サポーター	26	選手、関係者の家族
23	来賓	27	選手仲介人、代理人、マネジメント会社
24	協賛社、スポンサー企業	28	その他、上記の計画に規定されていない人
25	マスコット		

但し、チームベンチ外選手が来場し、ゾーン 2 にとどまることは認められる

※ 選手等の家族については、主催者の判断により感染予防対策を遵守した上でゾーン 3 に入り観戦することは認められる、特に第 2 種以下の大会では選手等の家族の観戦を検討する

-4. JFA 役職員の立会、視察

JFA 役職員は、状況に応じて立会、視察することができる。事前集約の上、試合の 1 週間前を目途に JFA より主管 FA へ連絡する。

-5. 会場外でのファン・サポーターの集結を防ぐ

① ファン・サポーターへの事前告知

- ※ スタジアムまたはその周辺に来場しない
- ※ できるだけ家にとどまって、テレビ・ネット等を通じて応援する
- ※ 友人と一緒にテレビ・ネット観戦する場合も、対面にならず、会話を減らし、マスクをして社会的距離を確保する
- ※ 上記が遵守されない場合、試合延期措置等を検討することも考えられる

- ② 上記の観点より無観客試合においては、ファン・サポーターの皆様が自主的に作成された横断幕の会場内外への掲出をすることはできません
- ③ 主管 FA は、告知および調整にあたり、チームに協力を要請して対応する。

(4) 制限付きの試合

政府の方針や自治体のガイドラインが緩和され一部の制限が解除されている場合には、以下のとおり制限付きの設定をします。

-1. 観客への制限

① 無料・有料共通

- ・政府・開催地自治体の方針に則り運用する
- ・※今後、感染状況により変更になる可能性があります。
- ・2021年11月19日の政府発表に基づき、5000人または収容定員50%のいずれか大きい方を入場者数上限とする。
- ・「感染対策安全計画」を策定し開催地自治体が承認した場合、収容率100%での開催が可能となる。但し、緊急事態措置、重点措置が発令された区域では、P.10の政府指針（[「感染状況に応じたイベント開催制限等について」](#)）に基づき、入場者数を決定する。
- ・収容定員50%以下の開催の場合、原則、客席は、周囲との間隔として、1席程度（前後左右）空ける
- ・席割（ブロック）は、主管FAが立案し、JFAが承認する
- ・主管FAは、上記開催条件につき、あらかじめ施設（開催地自治体）の了解を得る
- ・会場収容人数の制限数には、未就学児童、車椅子席の付添人も含める
- ・立ち見席、芝生席は、上記ルールに準じることを条件に設置可とする
- ・総合案内所は、感染対策をした上で設置可とする
(フェイスシールド、スタッフとお客様の間のビニールシートの設置等については主管FA判断)
- ・入場時にサーモグラフィーまたは非接触体温計により検温し、37.5度未満であれば入場することができる
(体温が37.5度以上の場合は入場をお断りする)
- ・保健所の積極的疫学調査（感染経路の聞き取り調査）にあたり、濃厚接触者に該当する可能性のある観客の情報の提供に協力するため、個人情報の管理を徹底した上で、観客の個人情報（氏名、電話番号等）、スタンドエリア内の観戦位置の情報提供の協力を求める

② 無料入場

- ・感染者が来場したことが発覚した場合を想定して、保健所の聞き取り調査に協力できるよう、来場者の座席が特定できるようにブロックやエリア表示を明確に示す

③ 有料入場

- ・感染者の中から試合観戦後に陽性反応者が発生した場合を想定し、保健所の積極的疫学調査（感染経路の聞き取り調査）に協力するため、指定席はチケット半券を保管するように案内する、また、自由席（ゾーン内自由席含む）は来場者の座席が特定できるようにブロックやエリア表示を明確に示す

- ・当日券は、開催地の感染状況等により、販売方法を判断する。なお、対面販売を行う場合は十分な感染対策を講じた上で行うものとする
- ・体温計測により 37.5 度以上が発覚し入場をお断りするなど、画面上で新たな規約を表示し、同意を得た上で購入に進む手順をとる

-2. ゾーン毎の動線管理

- ① 上限人数は設けない
- ② 「ゾーン 1：競技関連」への来場者は 最小限になるようにする

-3. 「ゾーン 1：競技関連エリア」へのアクセス制限

「ゾーン 1：競技関連エリア」へのアクセスをご遠慮いただく方

26	選手、関係者の家族
27	選手仲介人、代理人、マネジメント会社
28	サプライヤー

-4. JFA 役職員等の立会、視察

- ① JFA 役職員等は、状況に応じて立会、視察することができる。
- ② 事前集約の上、試合の 1 週間前を目途に JFA より主管 FA へ連絡する。

-5. 応援スタイルについて

感染対策のため、ファン・ソポーターのご理解とご協力が必要となります。

- ① 容認される行為は以下の通りです
 - ・横断幕掲出 ※掲出の際、密にならないよう十分配慮してください
 - ・拍手、手拍子
 - ・タオルマフラー、ゲートフラッグ等を掲げる
 - ・大旗を含むフラッグを振る
 - ・タオルマフラーを振る、もしくは回す
 - ・鳴り物（太鼓・応援ハリセン等）の使用
※自席でのみ使用可能とし、周囲の観客に迷惑とならないよう使用可能エリアを設定する
※太鼓は、手拍子の誘導、扇動をするために使用することができる
※メガホンの使用は除く、また、スタジアム備品を叩く行為は厳に慎む
- ② 禁止される行為は以下の通りです
 - ・声を出す応援
(禁止理由：飛沫感染につながるため)
例：指笛・チャント・ブーリング、トラメガ・メガホン・トランペット など道具・楽器の使用
 - ・メガホンの使用
(禁止理由：飛沫感染)
 - ・人と接触する応援
(禁止理由：接触感染につながるため)
例：ハイタッチ・肩組みなど

- ・「密」を作る応援
(禁止理由：飛沫感染・接触感染のリスクが高くなるため)
例：お客様がいる席での ビッグフラッグの掲出
※ただし、お客様がいない席に掲出する場合は容認される

-6. 観客、ファン・サポーターへの事前のご案内

- ① 無理な来場は、勇気をもって、見合させてください
 - ・体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接觸がある場合
- ② 入場ゲートで体温を測定し、37.5 度以上の場合は入場できませんので、あらかじめご了承ください
- ③ 会場ではマスクを着用してください
- ④ 会場でのマスクの配布はございませんので、各自ご準備ください
- ⑤ 熱中症対策でマスクを外す場合は、社会的距離(できるだけ 2m、最低 1m)、咳エチケットにご配慮ください
- ⑥ マスク着用を義務付けない例外は以下のとおりとします
 - ・乳幼児：着用しないことが望ましい（保護者の判断による）
 - ・上記除く未就学児：着用するかしないかは保護者の判断による
- ⑦ 手洗い、手指消毒をこまめに行うようにしてください
- ⑧ 会場では、社会的距離(できるだけ 2m、最低 1m)を確保するようにしてください(入退場時、トイレの列など)
- ⑨ 観戦時は、座席（立見席・芝生席等含む）から移動することを禁止とします
(間隔を空けずに隣に座る、スタンド前方へ移動して選手に声をかける等)
- ⑩ スタジアムの外でも、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保することはもとより、大声での発声、歌唱や声援、密集等の感染リスクのある行動を回避してください
- ⑪ アルコール飲料の持ち込みは政府・開催地自治体の方針に則り判断する
- ⑫ 保健所の積極的疫学調査にあたり、濃厚接觸者に該当する可能性のある観客の情報の提供に協力するため、個人情報の管理を徹底した上で、観客の個人情報（氏名、電話番号等）、スタンドエリア内の観戦位置の情報提供に協力してください

(5) チケッティング

制限付きの試合開催の期間は、政府方針に則り以下の通りに計画して下さい。

- ① 2021 年 11 月 19 日の政府発表に基づき、5000 人または収容定員 50% のいずれか大きい方を入場者数上限とする。
- ② 「感染対策安全計画」を策定し開催地自治体が承認した場合、収容率 100% での開催が可能となる。但し、緊急事態措置、重点措置が発令された区域では、P.10 の政府指針（「感染状況に応じたイベント開催制限等について」）に基づき、入場者数を決定する。

- ③ 収容定員 50%以下の開催の場合、原則、客席は、周囲との間隔として 1 席程度（前後左右）空ける
- ④ 席割は主管 FA が立案し、JFA が承認のうえ決定する
- ⑤ 来訪チーム応援席は設置する
 - ※ 主管 FA は上記開催条件につき、あらかじめ自治体の了解を得る
 - ※ 会場収容人数には、未就学児童、車椅子席の付添人も含める
 - ※ 立ち見席、芝生席は、上記ルールに準じることを条件に設置可とする
 - ※ 総合案内所：感染対策（マスク着用義務、フェイスシールド、スタッフとお客様の間のビニールシートについては主管 FA 判断）をした上で設置可とする
 - ※ 37.5 度以上が発覚し入場をお断りするなど、画面上で新たな規約を表示し、同意を得た上で、購入に進む手順を取ることとする

(6) 会場管理

-1. 会場の衛生管理

- ① 手指消毒液
 - ・ 使用するすべての部屋または各フロアの動線上に手指消毒液を設置する
- ② 石鹼
 - ・ トイレの手洗い場には、石鹼（液状ポンプ型が望ましい）を用意する
- ③ ペーパータオル
 - ・ ペーパータオルの設置は主管 FA の判断として、設置する場合はゴミ回収等の衛生面に注意する
- ④ チームエリアの消毒
 - ・ 換気を十分に行い、机、イス、ドアノブ等を可能な限り消毒する
- ⑤ ドアの開放
 - ・ ドアノブに触れる頻度を下げるため、ドアはできるだけ開けたままする

-2. 来場者の入退場管理（関係者）

- ① 検温ポイント
 - ・ 会場の管理エリアの入口を極力 1 箇所に限定し、チェック要員を配置し検温チェックを徹底する
 - ・ 検温し、37.5 度未満の場合は入場することができる（37.5 度以上の場合、入場をお断りする）
 - ・ 再入場の際も検温する（検温済みの方を識別する方法を工夫する）
- ② すべての入口に手指消毒液を設置する
- ③ 来場者名簿を利用して、来場時刻、退場時刻を管理する

-3. 観客の入退場管理

- ① 待機列が「密」にならないよう工夫する

例: ブロック毎に入場時間を分ける、開門時間を早める、間隔を空けることの呼びかけ、喋らないことの呼びかけ

② 入場時にサーモグラフィーまたは非接触体温計により検温し、37.5 度未満であれば入場することができる

※ 体温が 37.5 度以上の場合は、別箇所へ移動していただき、再度検温し、37.5 度以上 の場合は、入場をお断りする

※ 再入場の際も検温する（検温済みの方を識別する方法を工夫する）

③ 入口に手指消毒液を設置する

④ 手荷物検査を行う場合は、お客様ご自身に荷物を開けてもらい、お客様の荷物には直接触らない

⑤ 保健所の 積極的疫学調査 を行うにあたり、濃厚接触者に該当する可能性のある観客の情報提供するため、また、陽性反応者との接触機会を告知し、更なる感染拡大防止につなげるため、観客の中から陽性反応者が確認された場合の対応を考慮し、以下の通りとする

・観客の個人情報（氏名、メールアドレス、電話番号）を把握する

・観客見込みを想定し、定員管理できるよう開放するスタンドエリアを管理する

・スタンドエリア内の観戦位置を把握するため、位置がわかるように明示する

（既存の席番、ゲート・ブロック位置、表示のない場合にブロック表示を設定）

・氏名などの個人情報は非公開とした上で、陽性反応者の観戦位置を公表する

・実施方法：スマートフォンのアプリ等により観客の個人情報を提供していただく

・条件：もしも、来場者の中から陽性反応者が確認された場合に以下 A～B の対応をするため、観客の個人情報を提供していただいた上で、観戦していただく。（事前告知 および 入場口等に掲示）

A：氏名などの個人情報は非公開とした上で感染者の観戦位置を公表するとともに、観客に 対しメールにて情報提供する

B：迅速に積極的疫学調査を行うため、保健所等の公的機関に個人情報を提供する

⑥ ゲートスタッフは、券面チェックのみ実施し、お客様にもぎってもらう

⑦ 飲料の移し替え(実施する場合) は、カップを触る前にお客様に消毒してもらうなど衛生管理に 配慮する

⑧ お客様への配布物がある場合、不特定多数の方が触れないように管理し、定期的に手指消 毒をしたスタッフが配布する

-4. 場内放送、大型映像装置の運用

① 操作室に 3 密が生じないよう、最少人数での運用を工夫する

・操作室では必ずマスクを着用する

② 告知の実施については、通常通り実施する。また、新型コロナウィルス感染症対応に関する注 意・お願い告知を隨時行う

-5. 場内／場外売店

① リモートマッチの場合

- ・場内／場外売店は設置しない
- ② 制限付き試合の場合
- ・飲食販売は容認される（ただし、アルコール販売は状況により判断する）
 - ・グッズの販売は容認される
 - ・販売員は、マスク、手袋を着用する

-6. 場内／場外イベント

- ① リモートマッチの場合
- ・場内／場外イベントは実施しない
- ② 制限付き試合の場合
- ・イベントを開催する場合は、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）に十分に配慮すること
 - ・触れ合うことによる感染リスクが伴うイベントは実施しない。※マスコットによるファンサービスについて
は、不特定多数と触れ合う活動は実施しない
 - ・チラシ等を配布する場合、配布要員はマスク・手袋を着用し、社会的距離（できるだけ 2m、最低
1m）を保って行う（任意により、フェイスシールドを着用し、飛沫感染を防止する）

-7. 喫煙所

- ・原則、喫煙所は、設置しない

-8. スタジアム内外の掲出及び装飾

- ① リモートマッチの場合
- ・JFA が指定する大会タイトルバナー、スポンサー看板、スポンサーバナー等を掲出することができる
 - ・ファン・サポーターによる横断幕の掲出は、制作・受け渡し時等における感染防止の観点から、
クラブが預かって掲出することを含めて、行わないこととする
- ② 制限付き試合の場合
- 通常の試合通り設置可能

-9. 退場時

「密」にならないよう工夫する。例：時差退場、場内アナウンスによる呼びかけ

(7) 会場の諸室環境

主管 FA は、以下の点に留意して会場を設営します。

これらを実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。マスクの着用等により自己防衛をした上で競技会に参加してください。

また、各諸室の窓、ドアの開放、運営関係者及びチーム関係者全員にマスク着用を義務化することにより、熱中症を発症するリスクが高まりますので、こまめな水分補給を心掛けましょう。

-1. 諸室

運営諸室において、以下のとおり設定する。

- ① 各部屋に手指消毒液を設置する
- ② 全てのドア及び窓を開け、3密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ
- ③ ドリンクを冷やすためのドブ漬けは使用しない
- ④ 座席を設置する際に前後左右 1.5~2m 間隔をあけ、お互いが正面に座らないよう配慮する
- ⑤ 食事のみを行う部屋を別途設け、運営本部や各種控室で食事をとらない。
- ⑥ 食事部屋では間隔を空けた上で同一方向を向いて食事をとり、食事中は会話を慎む
- ⑦ 喫煙所は設けない

-2. 手洗い場所

関係者、参加チームの選手・スタッフ、マッチオフィシャルが競技会の際に手洗いをこまめに行えるよう、以下のとおり設定する。

- ① 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹼を用意する
- ② 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする
- ③ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。（布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする。）
- ④ 手指消毒液を設置する

-3. トイレ

トイレについても感染リスクが比較的高いと考えられることから、以下のとおり設定する。

- ① 便器の蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
- ② 手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹼を用意する
- ③ 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする
- ④ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。（布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする。）
- ⑤ 手指消毒液を設置する

-4. ロッカールーム

ロッカールームは 3 密が揃い、感染リスクが比較的高いと考えられるため、以下のとおり設定する。

- ① 広さにはゆとりを持たせ、選手同士が密になることを避ける

- ② ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する、別室を用意する、または外部にテントを設置する措置を講じる
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子、マッサージベッド等）については消毒する
- ④ 一日に同会場で複数試合を行う場合は、試合終了毎に消毒する
- ⑤ 換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を開け放しにして常時換気を行う
- ⑥ チームの注意事項
 - ・選手及びスタッフはマスクを着用し、会話を最小限に留める
 - ・選手及びスタッフはロッカールームの滞在時間を短くするため着替えに限定する
 - ・選手及びスタッフはシャワーを交代で使用し、密集を避ける

-5. 審判控室

審判控室について、以下のとおり設定する。

- ① 広さにはゆとりを持たせ、審判員同士が密になることを避ける
- ② ゆとりの確保が難しい場合は、別室を用意する、または外部にテントを設置する措置を講じる
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については消毒する
- ④ 換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を開け放しにして常時換気を行う
- ⑤ 審判員の注意事項
 - ・審判員はマスクを着用し、会話を最小限に留める
 - ・審判員は審判控室の滞在時間を短くするため着替えに限定する
 - ・審判員はシャワーを交代で使用し、密集を避ける
 - ・審判員同士のミーティングは会場で3密とならないスペース等を探して実施する

(8) 試合会場の設営、撤去

-1. 試合日以外に設営作業を行う場合

- ① 作業開始前に体温を測定する
- ② 予め作業に参加する者の名簿を用意し、来場時刻、退場時刻を管理する
 - ・感染者が出た場合、直ちに連絡がとれるよう、連絡先を把握しておく
- ③ 作業に参加される方の「確認書（仮称）」の運用を検討する
 - ・直近2週間の体調不良や濃厚接触がなかったこと等の確認を書面で行う
- ④ 全員が利用可能な場所に、手指消毒液を設置する

-2. 撤収作業

- ① 予め作業に参加する者の名簿を用意し、来場時刻、退場時刻を管理する
 - ・感染者が出た場合、直ちに連絡がとれるよう、連絡先を把握しておく

-3. ゴミの廃棄方法

- ① ゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用する

- ② ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄する
- ③ マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹼と流水で手を洗い、手指消毒する

3. 競技運営における感染対策

(1) 参加チーム、審判員、及び競技

-1. スタジアムへの到着

- ① 両チームは、競技会規定の指定時刻までに会場に到着する
- ② 審判員は各自到着し、試合終了後、各自退出する

-2. 試合当日の体温測定

参加チーム及び審判員は、以下のとおり対応する。

経過	参加チーム(選手・チーム役員)	審判員
① 毎日の定時の検温	変わらず実施する	変わらず実施する
② 当日の検温	会場到着以前にチーム全員の体温を測定する	会場到着時に入場口の検温所で検温する
③ 37.5℃以上の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・当該者は、会場に来場しない ・もしも、会場へ向かっている間に発熱した場合は、タクシー等で、自宅またはホテルに戻る <ul style="list-style-type: none"> ・参加チームの感染対策責任者は、主管 FA の感染対策責任者と情報共有する ・主管 FA の感染対策責任者は、マッチコミッショナーに報告する ・新型コロナウイルス感染症の疑い症状がある場合、帰国者・接触者相談センター等へ連絡し相談の上、医療機関を受診し、検査等の適切な処置を行う ・疑い症状がない場合、適切に経過観察する 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の管理エリア内に入ることはできない <ul style="list-style-type: none"> ・検温所の担当スタッフは、主管 FA の感染対策責任者と情報共有する ・主管 FA の感染対策責任者は、マッチコミッショナーに報告する ・新型コロナウイルス感染症の疑い症状がある場合、帰国者・接触者相談センター等へ連絡し相談の上、医療機関を受診し、検査等の適切な処置を行う ・疑い症状がない場合、適切に経過観察する

-3. 参加チーム及び審判員全員に求められること

感染対策ルール を遵守する。

-4. 更衣室（参加チーム及び審判）

- ① 更衣室内でも社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する
 - ・空いている部屋があれば追加の更衣室として利用する（先発と控えで分ける等）
 - ・追加の更衣室が難しい場合、時間をずらすなどの工夫をする

- ② 更衣室の滞在時間を、できるだけ短時間に減らす（目安：各自 30～40 分）
- ③ 更衣室内では、必ずマスクを着用する
- ④ タオル、飲水ボトル等は、個別利用することとし、共用しない
また、クーラーボックス（クーラーバッグ等を含む）を使用して飲水ボトル・氷を保冷する場合は、本体、飲水ボトル、冷却水等に触れることによる接触感染リスクが高まることから、以下のとおり徹底する。
 - ・健康チェックシートにより体調管理した担当者を特定し、クーラーボックスおよび飲水ボトル・氷等に触れる前に手指消毒、手洗いを十分に行い、管理する
 - ・管理担当者以外の不特定多数の人が、クーラーボックス本体およびその中の飲水ボトルや氷に直接触れない
 - ・飲料の受渡しについては、クーラーボックスの外に出し、取りやすい状態に並べて各自がとつていく（不特定多数の人が同一の飲水ボトル等に触れないようにする）
 - ・口をつけフタを開封した飲水ボトル等をクーラーボックスに戻すことは、絶対にしない
- ⑤ シャワーは、一基ずつ間隔を空けて使用することを原則とする
- ⑥ 人数が多い時は、時間帯をずらして使用することで、人と人の間隔（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する
- ⑦ アイスバスは対面とならないよう、一人ずつもしくは少人数で使用する。
 - ※ 社会的な距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保ち、顔の粘膜を不用意に触ることがないよう注意する
 - ※ 定期的に水槽の水を入れ替え、清掃を徹底する
 - ※ 風呂水専用塩素剤等の使用も検討する
- ⑧ サウナの使用は禁止する

-5. 選手の治療、マッサージ

- ① トレーナーは、マスク・手袋・手指消毒など感染対策をとった上で対応する
- ② 環境（使用する器具等）の消毒を行うこと
- ③ チームドクターや会場ドクターが新型コロナ感染を疑う徴候のない選手の外傷に関して診察を行う場合には、感染対策（マスク・手袋の着用）を行う

-6. 競技用具、備品の消毒

- ① 試合開始前にボール、コーナーフラッグ、ゴールポストを消毒する
- ② ボールは、ハーフタイムにも消毒する

-7. ボールパーソン、担架要員

- ① 無観客試合でのボールパーソン、担架要員は、大人が担当するように検討する
 - ・ボールパーソンの人数をできるだけ少なくする方法を検討する
- ② マスク・手袋の着用
 - ・マスク・手袋を着用し、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つ。
- ③ フェイスシールド

- ・フェイスシールドは主管 FA 判断により着用することができる

-8. フィールドインスペクション

マッチコミッショナー、主管 FA、審判員は、マスクを着用し 3 密を避けて社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保って短時間に行う

-9. マッチコーディネーションミーティング

主催および主管 FA が必要と判断した場合、十分な感染対策を行った上で、マッチコーディネーションミーティングを実施する。マッチコーディネーションミーティングを実施しない場合は、主管 FA は、マッチコミッショナー、両チーム運営担当、審判員に対し、試合運営の留意すべき事項を書面にまとめて事前に伝達する。

〔主な感染対策確認内容〕

- | | |
|---|--------------------|
| ・試合前、試合後に相手チーム、審判団との握手は実施しない | ・エスコートキッズは実施しない |
| ・両チームベンチへの挨拶を実施しない | ・得点時にハイタッチ、抱擁を行わない |
| ・倒れた選手に手を貸さない | ・ボトルを共用しない |
| ・口に含んだ水を吐かない | ・タオルを共用しない |
| ・水・氷を溜めたクーラーボックスを共用しない | |
| ・ピッチ上で密集密接（手をつなぐ、肩を組む）となる円陣は行わない | |
| 尚、密集、密接にならずに社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保って円になって集まることは認められる | |
| ・ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離についてしっかりと配慮する | |
| ・ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐く、手鼻をかむなどの行為を行わない | |
| ・ベンチではマスクを着用し、会話を控える | |

-10. 試合開始前のウォーミングアップ

- ① 室内練習場等でのウォーミングアップ
 - ・選手、チーム役員は、マスクをしなくてよい
 - ・換気に留意する
- ② ピッチ上でのウォーミングアップ
 - ・選手、チーム役員は、マスクをしなくてよい
 - ・審判員はマスクをしなくてよい
- ③ スタンドへのボールやプレゼントの投げ込むような行為をすることはできない

-11. 試合開始前の、審判団による選手チェック及び用具チェック

- ① 各チームの更衣室前（通路が狭い場合は屋外で実施）で副審が実施。
- ② 副審はマスクを着用

-12. 選手及び審判団のピッチ入場～キックオフ

- ① 選手集合スペース

- ・選手集合スペースは、チームごとに別々に設定し、チーム選手、審判員等が社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保ち、密にならないスペースを確保する
- ② 入場動線、入場順
 - ・入場前の混雑を防ぐため、両チーム及び審判員はそれぞれに入場する
 - ・同一の動線となる場合は、審判、チーム A、チーム B の順に別々に入場する

※但し、入場前の待機時及び、入場時に両チームの間に十分な距離を確保できる会場の場合は、同時に入場することも可とする
- ③ リスペクト旗の入場及びエスコートキッズは行わない
- ④ マスコットの入場、子供を抱っこしての入場も不可
- ⑤ 握手セレモニー、ペナント交換、選手や審判員の表彰、来賓などによるキックオフセレモニー等は行わない
- ⑥ チームの集合写真撮影は認められる、但し、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つこと
- ⑦ コイントスは主審及び両チームのキャプテンにより実施する、但し、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つこと
- ⑧ ピッチ上で密集密接（手をつなぐ、肩を組む）となる円陣を組むことは行わない
尚、密集、密接にならずに社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保って円になって集まることは認められる

-13. スポンサーの露出

- ① 広告看板、バナー等は、通常の試合と同様に掲出される
- ② 会場への来場者増につながらず、かつ社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つ演出は容認される

-14. チームベンチ

- ① 1席空けて座る
- ② 入り切らない場合は、ベンチを増やして対応する
または、主審および両チームで事前に合意した場所で待機を設定する
- ③ 一日複数の試合が行われる場合は、入れ替え時に消毒液でベンチシートなどを拭き取る
- ④ ベンチの選手及びチーム役員は、マスクを着用する
但し、テクニカルエリアで指示を送る際は、マスクを外してよい
競技中については、プレー及びアップ時以外はマスク着用とする
- ⑤ 不要な会話・接触は控える
 - ・「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント（厚生労働省 2020 年 5 月 29 日）
 - ・高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で人と十分な距離（少なくとも 2 m 以上）が確保できる場合には、マスクを外してよい
- ⑥ ベンチの選手及びチームスタッフはマスクを着用する
 - ・チーム役員が、テクニカルエリアで指示を送る際は、マスクを外してよい

-15. 試合中の飲水

- ① 原則飲水ボトルの共用を避ける
 - ・たとえ口が直接触れなくても唾液が飛ぶ可能性があり、感染の危険性はある
 - ・ペットボトルでのピッチレベル設置使用可（但し、スクイズボトルタイプのキャップに交換する）但し、使用したペットボトルは必ず破棄すること
- ② 氷水にスポンジを入れて体を冷やすことは、体を冷やすだけであれば容認される
但し、スポンジで顔を拭うことは行わない
- ③ 選手が口をつけフタをしたボトル等をクーラーボックスに戻すことは、絶対に避ける

-16. 飲水タイム

- ① 感染対策が十分に講じられ、飲水ボトルの共用を避ける措置（飲みきりのボトルを用意する等）を行った場合においては、主催者の判断により、マッチコミッショナー（またはピッチ責任者）および両チームの合意のもと、飲水タイムを設けずに対応することができる。
- ② 上項の対応が講じられない場合においては、飲水ボトルの共用を避けることから、十分な水分補給の機会が見込めないため、W B G T の数値に関係なく飲水タイムを設定し、パフォーマンス向上につなげる
- ③ 「熱中症対策ガイドライン」に基づき、W B G T の数値が条件に達した場合は、Cooling Break を実施する

-17. ゴールセレブレーション

- ① 社会的な距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保って実施する

-18. ハーフタイム

- ① 選手、チームスタッフ、審判員等の引き上げ動線が混雑しないよう、予め確認する
- ② グラウンドの補修は、通常と同様に実施される
- ③ ボールを消毒する

-19. 試合終了時のセレモニー

両チーム 及び 審判員はピッチ中央に集まる。

但し、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つよう十分配慮する。

- ① チームとして集まって自宅等で観戦しているファン・サポーターに挨拶する等を行う場合、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保すること
 - ・握手、ハイタッチ、抱擁は行わない
 - ・選手、チームスタッフ、審判員は、各自で更衣室に戻る
- ② その他注意事項
 - ・試合後のスタンド内に選手・スタッフが上がってのセレモニーは禁止
 - ・選手、チームスタッフは、ゾーン 1（フィールド）より外（スタンド側）に出ない

- ・入場ゲート周辺での見送りセレモニーについても禁止

-20. ドーピングコントロール

- ・検査員は手洗い又はアルコール等による手指消毒を徹底する
- ・検査員は検査中マスク、フェイスシールド、ゴム手袋を常時着用する
- ・検査員は可能な限りアスリートとの距離をとり対応する
- ・換気することが可能な場所においては、換気を行う
- ・検査にて使用する備品類のアルコール等による消毒を徹底する

※関係者は、上記の他、別途の詳細ガイドラインを参照のこと

参考：公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）公式 WEB サイト

[https://www.playtruejapan.org/topics/2020/000453.html"](https://www.playtruejapan.org/topics/2020/000453.html)

(2) 来賓対応

-1. 来賓全員に求められること

感染対策ルール を遵守する

-2. 主管 FA は予め、来場者の一覧表を作成し、当日の管理に役立てる

- ① 来場時刻、退場時刻を記録する
- ② 感染者が発生する場合に備えて、来場者全員の連絡先を把握しておく

-3. ケータリング

- ① ビュッフェ式の食事提供は行わない
- ② 食事を提供する場合は、ランチボックス形式とする
- ③ ドリンク提供（アルコールは除く）はサーブするスタッフを配置する、もしくは、ペットボトルで提供する
- ④ アルコールの提供は、社会的状況を鑑みて判断する

-4. 貸し出し物

- ① ブランケット等の貸し出しあは行わない

(3) メディア対応

試合を取材するメディアに対しても、事前に感染対策を周知し、次に記載されている内容を遵守するように伝えます。

-1. メディア全員に求められること

感染対策ルール を遵守する

-2. 試合取材における必須事項

競技会・試合の取材申請を事前に締め切ることにより、取材者の人数調整が可能となり、試合会場の設備に合わせて、3密を避けることにより、感染リスクを下げるることができます。

- ① すべてのメディアが JFA への事前申請を必須とする
- ② 取材活動ができる人数制限を設け、取材許可されたメディアのみ会場内の取材を可とする
- ③ メディアは、健康チェックシートに必要事項を記入し提出する
- ④ 受付時の検温により体温が 37.5 度以上の方、体調不良者は、取材活動をお断りする

-3. 会場内の対応について

- ① メディア入口、メディア動線は、チーム・審判と完全に分け、接触がないようにする
- ② スタジアムでのメディア受付開始時刻は以下の通りとする
 - ・記者 フォトグラファー／ENG クルー（試合開始 60 分前～）
- ③ 各メディアは受付終了後、所定の取材位置へ速やかに移動し、控室の使用をすることはできない（控室はフォトグラファー／ENG クルーの荷物置き場がない場合にのみ使用、デスクワークや滞在は避ける）
- ④ 会場内では、上記留意点を必ず心がける

-4. 記者席での取材活動

- ① 取材活動が許可された記者については、指定された記者席で取材活動をおこなう
 - ・隣の記者との間隔は、社会的距離(できるだけ 2m、最低 1m)を空けて着席する
 - ・主管 FA 広報担当者は、各メディアの座席位置を指定し把握する

-5. ピッチレベルでの撮影（取材活動）

- ① ピッチレベルの撮影位置は、両ゴール裏エリアのみとする。
 - ・撮影位置の間隔は、社会的距離(できるだけ 2m、最低 1m)を空けて設置し、各メディアの位置を把握する
 - ・撮影者(フォトグラファー、ENG クルー)はいかなる理由があってもベンチ付近に立ち入ることはできない
- ② 試合前の入場セレモニー等の撮影は、JFA 公式フォトグラファー／ENG（オフィシャルビデオ着用者）及び当日の中継局のみ撮影を許可される
- ③ 試合中に決められた撮影位置からの移動は禁止する（ウォーミングアップ含む）

-6. 試合終了後の対応

- ① 監督記者会見および選手の取材は対面では行わず、WEB 会議システムにて実施する
- ② WEB 会議システムが困難な場合、以下の通りの対応とする
 - ・監督・選手、メディア関係者は常時マスクを着用し、不必要的会話を控える
 - ・監督・選手とメディアが交わらないよう、かならずエリアをプラ柵・テープなどで仕切る
 - ・監督・選手とメディアの距離は 2m以上取る。取材者同士も最低 1mの間隔を保つ
 - ・最小限での対応とするため、記者 1 名、テレビ局 1 名が代表質問を行い、コメント・素材はメディア関係者同士で共有する
 - ・フォトグラファーは試合終了後の対応エリアに入らない
 - ・できるだけ換気の良い場所で取材を行う
 - ・できるだけ短い時間で取材を終える
- ③ すべてのメディアは、試合終了後 1 時間以内を目途に会場から退出する

4. 事後対応

競技会終了後、以下の通り対応します。

-1. 健康チェックシートの保存

主管 FA は、万が一、感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、競技会当日に参加した選手、スタッフ、メディア、運営関係者から提出された健康チェックシートに保存期間（少なくとも 1 ヶ月）を明記し、保存します。また、保存期間経過後、健康チェックシートを廃棄します。

-2. 参加チームの状況確認、対応

競技会終了後 14 日以内に、各チームの感染対策責任者に連絡を取り、具合の悪い選手・スタッフがいないか確認します。万が一、運営スタッフの中から競技会終了 14 日以内に新型コロナウイルス感染症の症状が出た場合には、帰国者・接触者相談センターやかかりつけ医、地域の相談窓口に相談します。その後、新型コロナウイルスの陽性反応となった場合は、保健所の指示に従うとともに、主管 FA は JFA に報告します。

また、チームから感染者発生の報告があった場合にも、同様にその旨 JFA に報告します。

5. 夏季における熱中症予防に向けた留意点

気温の上昇する夏季においては、各諸室の窓やドアの開放、参加者にマスク着用などの義務化により、熱中症を発症するリスクが高まるところから、感染拡大防止に向けた取り組みに併せて熱中症を予防します。

「スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について」を参考するとともに、政府が示す「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントに基づく下記の点などに留意して各種活動を実施します。

-1. マスクの着用

マスクの着用時は、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、体感温度の上昇など、身体に負担がかかることがあるため、参加者に対してはこうしたリスクを周知するとともに、こまめな水分補給を心がけます。

また、高温や多湿といった環境下では、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクを外しても構いません。

-2. エアコンの使用について

諸室等においてエアコンを使用する場合も、冷房時でも窓開放や換気扇によって換気を行います。換気により室内温度が高くなる場合があるため、エアコンの温度設定を下げるなどの調整をしてください。

-3. 涼しい場所への移動について

参加者に対しては、少しでも体調に異変を感じたら、速やかに涼しい場所に移動するようアナウンスします。

なお、会場の関係で、医務室等の諸室にすぐに入ることができない場合は、屋外でも日陰や風通しの良い場所への移動を促せるよう事前に準備します。

6. 様式

(1) 健康チェックシート

健康チェックシート							
<p>本健康チェックシートは、〇〇サッカー協会が開催する各種大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。</p> <p>本健康チェックシートに記入いただいた個人情報について、〇〇サッカー協会は、厳正なる管理のもとに保管し、チーム関係者の健康状態の把握、来場可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要な範囲で保健所等に提供することがあります。</p>							
<基本情報>							
団体名				代表者連絡先			
フリガナ				生年月日	西暦 年 月 日		
氏名				電話番号			
				Eメールアドレス			
住所	〒						
<大会当日までの体温>							
日付	起床時体温	日付	起床時体温	日付	起床時体温	日付	起床時体温
/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃
/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃
/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃
/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃
<大会前2週間における健康状態> ※該当するものに「✓」を記入してください。							
チェック項目							チェック欄
① 平熱を超える発熱がない							
② 咳（せき）、のどの痛みなどの 風邪症状がない							
③ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がない							
④ 臭覚や味覚の異常がない							
⑤ 体が重く感じる、疲れやすい等がない							
⑥ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がない							
⑦ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいない							
⑧ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がない							
⑨ その他、気になること（以下に自由記述）							
(大会参加者が未成年の場合) 保護者 確認欄							
保護者 氏名							
電話番号	Eメールアドレス						
確認日	西暦	年	月	日			

競技会主管 F A用 新型コロナウイルス対応版チケットリスト

シーン	項目	チェック欄	備考
1 挑戦会場・関係者の確認事項			
	(1) 主催者は必ず登録者名を定める。		
	(2) 各参加チームの登録対象選手名を確認する。 主催者の登録対象選手名は参加チーム登録対象選手名に以下の事項を事前に伝達する。 (1) 体調不良の場合は、(2) 他の選手や監督・審判員との接触目撃がある場合 (3) 同室宿泊や身内などに感染が疑われる方がある場合 ・過去14日以内に政府から入出港警報、又は国際観察期間を必要としている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合 (2) 体調不良の場合は、(3) 他の選手や監督・審判員との接触目撲がある場合 (4) 選手会に参加する上級アマチュア選手(アマチュア選手登録者)		
	(4) 参加チームの登録対象選手名に記載された地元の在住者が会場となる地域への移動制限が解除されており、会場への移動が問題なく行えることを確認する。		
	(5) 選手会開催する会場のチケット料金が会合費に十分な額でレーニングを行っているか確認する。		
	(6) 競技会に参加する全チームの選手・スタッフ員が新しい生体様式に従って日々の体温対策、健診管理を行っていることを確認する。		
	(7) 競技会に参加する全チームの選手・スタッフ員に選手登録検査(2種類の健診状態確認表)の人がないことを確認する。		
	(8) 参加チームの選手・監督者以外に、関係者が競技会・試合場所で活動していることを確認する。		
	(9) 1人1枚のチケットを購入する場合、各自のチケットを購入する場合、当該地の営業停止が発令されているか否か。		
	(10) 試合会場内に会場運営委員会の看板を設置する。会場運営委員会の看板の設置場所をマスクの着用、手洗いの執行を行った。		
	(11) 所有日より会員登録の個人情報(性別・年齢等)が変更されない・記入漏れのないルール試合体例書類で事前に確認する。		
	(12) 試合会場内に会員登録の個人情報(性別・年齢等)が変更されない・記入漏れのないルール試合体例書類で事前に確認する。		
	(13) 健康状態チェックで陽性者でない確認済みの人がいる場合は、手洗いとマスクの着用で確認する。		
	(14) フィールド内に立派な木造建物で構成してない、エプロンラウンドを事前に決まり一組で通切る。		
	(15) 代表者は監査会議とW杯で実施する、または監査・会場事務を担当するチーム代表者にルール試合体例書類で事前に確認する。		
	(16) 試合会場内のカーペットが張り、換気扇が点灯する場合、別途窓を開けるか窓枠(ドアハンドル)にシートの取付けカバーを設置する。(裏面封緘から壁面付箇所へ貼付)		
	(17) ベンチ間隔(椅子と椅子の距離)を確保する。シート等で追加ベンチ設置する。		
	(18) 可能範囲、更衣室、ベンチ、衛生設備、トイレ等の消毒を行う。		
	(19) ハーフ時間前に涼亭等に蓋を開ける(表示)、涼亭等に手洗いは10分以上の間を行つ。		
2 競技会前			
	2.1 チーム登録		
	(1) 新規アカウント登録者以外に、関係者が競技会・試合場所で活動していることを確認する。		
	(2) 取材料にて確認し、(1)の内容を確認する。		
	(3) 記者会、会見会場が会場・会場外の場所を検討する。代替案の場所がない場合は、取材メディアとの協商をする。		
	(4) 選手会に参加しないマスコミ活動を確認する。		
	(5) 選手会開催手が2m以上の距離が保てる「カスクワード」の設置を行う。		
	2.2 開会式対応		
	(1) 新規アカウント登録者以外に、関係者が競技会・試合場所で活動していることを確認する。		
	(2) 練習会開催、入浴入りしない状態は、自宅にての場合は、イヤホンに関する方針に従う。		
	練習会開催の場合は、以下の通りイヤホン(ヘッドセット)で事前にアラスを行つ。		
	(1) 通常イヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(2) マスクを着用してイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(3) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(4) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(5) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(6) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(7) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(8) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(9) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(10) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(11) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(12) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(13) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(14) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(15) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(16) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(17) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(18) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	(19) 両耳共にイヤホン(ヘッドセット)で音楽を聴く(音量は100%)		
	2.3 開会式実施		
	(1) 会場運営者(開会式実施者)が会場にて記載の数を把握する。		
	(2) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(3) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(4) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
	3 競合当日		
	3.1 開会式		
	(1) 会場運営者(開会式実施者)が会場にて記載の数を把握する。		
	(2) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(3) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(4) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
	3.2 競合実施		
	(1) 会場運営者(開会式実施者)が会場にて記載の数を把握する。		
	(2) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(3) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(4) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
	3.3 競合終了		
	(1) 会場運営者(開会式実施者)が会場にて記載の数を把握する。		
	(2) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(3) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(4) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
4 競合中の確認事項			
	4.1 健康状態の確認		
	(1) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(2) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(3) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(4) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
	4.2 会員登録の確認		
	(1) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(2) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(3) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(4) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
	4.3 健康状態の確認		
	(1) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(2) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(3) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(4) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
5 競合後			
	5.1 会員登録		
	(1) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(2) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(3) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(4) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
6 競合(伴つ場合)			
	6.1 対戦会場		
	(1) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(2) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(3) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(4) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
	6.2 対戦(伴つ場合)		
	6.2.1 対戦会場		
	(1) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(2) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(3) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(4) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		
	6.2.2 対戦(伴つ場合)		
	(1) 会員登録の必須項目(性別・年齢等)が明確な登録者の人は確認する。		
	(2) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(3) 全ての選手登録が会員登録と一致する。		
	(4) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(5) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(6) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(7) 会員登録の性別と会員登録の性別が一致する。		
	(8) 上記(1)-(6)の確認ができない場合は連絡試合として、事前にその旨あらためて確認する。		

*このリストをもとに各F Aが地場の実情に応じてカスタマイズする。

参加チーム用 新型コロナウイルス対応版チェックリスト例

シーン	項目	チェック欄	備考
1 事前準備	(1) チーム内において感染対策責任者を定め、競技会主管FAの感染対策責任者を把握する。		
	(2) 競技会・試合に参加するまでの注意事項を選手・スタッフ全員が理解する。(不安がある場合は参加を見送る)		
	(3) 主管FAから健康管理表を入手し、競技会開催日まで健康チェックを行う。		
	(4) 選手が未成年の場合は、保護者が競技会の会場、日時、対戦相手を理解しており、参加を了承している。(了承しない場合は無理に参加させない。)		
2 往復の移動	(1) マスクを着用する。		
	(2) 往復の公共交通機関利用時にはラッシュ時や混んでいる車両を避ける。		
	(3) 窓を開ける等、換気がよくなる工夫をする。		
	(4) 切符を買うために使う指を限定し、その際に使用した指で顔や目を触らない。		
	(5) 電車・バス等公共交通機関内において、常に他者と距離をとり、会話を控える。		
	(6) 目的地に到着後、特につ革、手すりなどを触った手を手洗い、消毒、うがいをする。		
	(7) 寄り道をせずに、できるだけ早く帰宅する。		
3 試合前	(1) 選手・指導者・スタッフはマスクを着用する。		
	(2) 健康チェックシートを主管FAの感染対策責任者に提出する。		
	(3) 着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。		
	(4) 更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開け放しにする		
	(5) 握手やハイタッチ等は行わない。		
	(6) 円陣を行わない。		
	(7) ミーティングの回数・時間を減らす、もしくは行わない。		
試合関係者のコミュニケーション、給水等			
4 試合中	(1) 指導者・スタッフ、ベンチに座る選手はマスクを着用する。		
	(2) プレー以外の不要な接触を避ける（得点後の喜び、交代時の握手等）。		
	(3) ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも距離についてしっかりと配慮する。		
	(4) ベンチでの選手間の距離を保つ。		
	(5) サブの選手は、アップ時の他の選手との距離にも注意を払う。		
	(6) 水・氷を溜めたクーラーボックスにボトルを濁けない。		
	(7) ボトルを他の選手と共有しない。		
	(8) タオル等、リネンを他の選手と共有しない。		
	(9) うがいた水をピッチ内に吐かない。		
	(10) ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐いたり、手鼻をかまない。		
ハーフタイム・交代・退場時、試合終了時の対応			
5 試合後	(1) 更衣室に戻る前に消毒や手洗い、うがいをする。		
	(2) 選手交代後にわざわざ消毒や手洗い、うがいをする。		
	(3) 退席や退場の際等、審判員と会話をすることがあったとしてもその距離には十分に配慮する。		
	(4) 例え親しい選手を他の選手がいたみに接觸しない。また、ピッチ外に当該選手を移動させる際は、おんぶやだっこを避け、担架を活用する。仮に、おんぶ等をして当該選手を移動させた場合、移動に関わった人は速やかに消毒を行う。		
	(5) メディカルスタッフはラテックスグローブを活用する。		
	(6) 試合後のチーム・審判員との挨拶、相手チームベンチへの挨拶は行わない。		
	(1) 更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開け放しにする		
	(2) 着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。		
	(3) シャワーの利用についてはローテーションを組んで交代で浴びる等の工夫をする。		
	(4) 試合会場のルールに従い、ゴミを密封した状態で処分するか、持ち返る。		
6 帰宅後の過ごし方	(1) 手洗いやがいを徹底する。		
	(2) バランスの良い食事をとる。		
	(3) 検温と共に行動記録を書く。		
	(4) 早めに就寝し、十分な睡眠時間を確保する。		
7 事後対応	(1) 帰宅後14日以内にチームの中から感染者が出た場合は、主管FAの感染対策責任者に速やかにその旨伝える。		

チーム感染対策責任者： _____

講習・研修会主管 F A用 新型コロナウイルス対応版チェックリスト例

シーン	項目	チェック欄	備考
0 事前検討事項	(1) 日程を短縮して開催することができないか。 (2) 人数を縮小しての開催、分散開催ができるか。 (3) オンラインでの研修（講義等）ができるか。 (4) 宿泊を伴わないカリキュラムやスケジュールを考えられないか。体力的に無理のない日程を考えられないか。		
	(1) 主管F Aは感染対策責任者を定める。 主管F Aの感染対策責任者は参加者・スタッフに以下の事項を事前に伝達する。 (1) 以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせること ・体調が良い場合（例：発熱、咳、喉頭痛などの症状がある場合） ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる (2) 過去14日以内に政府から入国制限、入国情報の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者の濃厚接触がある場合 (2) 当日参加する参加者・スタッフ全員がマスク着用する (3) 健康チェックシートに記入し提出してもらう (4) 講習・研修会に参加する上で主管 F Aが示す注意事項を遵守してもらう		
	(3) 参加者・スタッフにそれぞれの地域の自治体から会場となる地域への移動制限が解除されており、会場への移動が問題なく行えることを確認する。 (4) 参加する全ての参加者・スタッフが「新しい生活様式」に従って日々の感染症対策、健康管理を行っていることを確認する。 (5) 参加する全ての参加者・スタッフの濃厚接触者として2週間の健康状態観察中の人がいないことを確認する。		
	(6) 参加者・スタッフの保護者ならびに関係者は講習・研修会を開催を了解しており、会場、日程、カリキュラム内容を理解していることを確認する。 主管F Aの感染対策責任者は、事前に下記事項を会場（グラウンド）の管理者等に確認する。 (1) 会場（グラウンド）が感染対策を十分に行っているか否か。 (2) 他団体が入り次第で同会場を使用するか、直前に使用する場合、当該団体の感染防止対策が適切になされているのか否か。 (8) 講習・研修会運営に関わる全員が感染対策を認知し、運営準備段階からマスクの着用、手洗いの徹底を行う。 (9) 前日及び当日に体調の悪い人は講習せず申し出て会場に来ない、足を運ばないルールを講習・研修会関係者間で事前に徹底する。 (10) 講習・研修会に参加する全ての人（F A、ボランティア、会場、その他関係者）に健康チェックシートを提出してもらい健康状態チェックを行う。 (11) 健康状態チェックで体調が悪い人がいる場合は、参加させない。		
1 事前確認事項 (参加者・スタッフ)	グラウンド (1) 会場（グラウンド）入口に消毒液を設置する。 (2) 会場（グラウンド）のロッカールームが狭い、換気がしない構造の場合、別の部屋を準備するか室外（グラウンド脇など）にテントの仮設ロッカーを設置する。 (3) ベンチで間隔を空けて座れるよう、テント等で追加ベンチを設置する。（暑熱対策から屋根付きベンチとする） (4) 可能な限り、更衣室、ベンチ、控室、トイレ等の消毒を行う。 (5) トイレの個室に「蓋を閉める」表示、洗面所に「手洗いは30秒以上」の掲示を行う。 (6) 備品の共有はできるだけ避ける（ビブ等） (7) 飲料は必ず各自で専用のボトル等を用意する。クーラーベンチなどで共有しない。 (8) ドラッグを使用しない。		
	研修室 (1) 会場（研修室）入口に消毒液を設置する。 (2) 座席の間隔を広げる。 (3) 演壇と参加者の距離の間隔を広げる (4) 集合・解散の挨拶時に握手やハグ行為は行わない。 (5) 大声は避ける。 (6) 講習中もマスクを着用する。 (7) 備品の共有はできるだけ避ける（ベンチやマジック等） (8) 全て諸室のドアを全て開いた状態に保つ。（換気、ドアノブを触らないよう配慮。） (9) 諸室の窓を全て開いた状態に保つ。（換気） (10) 研修室の換気を十分に行う。		
	宿泊施設 (1) (宿泊) (2) 1部屋あたりの宿泊人数は、ベット（布団）とベット（布団）の間隔を十分に確保できる人数とする。 (3) リネン・室内備品類の交換頻度をできるだけ多くする（施設との交渉）。 (4) 入室時に手洗い・消毒 (5) 窓を開けた状態を保つ（換気） (6) 就寝時以外のマスクの着用 (7) (食事) (8) 食事会場入室時・食事直前の手洗い・消毒の徹底 (9) セットメニューでの提供（ピッヂはNG） (10) カトラリー類は随時提供し、まとめて入っている状態からならない。 (11) 飲料の提供の工夫（カップ・コップを共有しない） (12) 食事会場スタッフのマスク着用依頼 (13) 座席は可能であれば向かい合わせや隣接しないように人と人の間隔をあける。 (14) 食事中の会話を配慮する。 (15) (入浴・洗濯) (16) 大浴場の場合は、一度に入浴する人数を制限し、分散して入浴するよう工夫する。 (17) 更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開け放しにする (18) 着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。 (19) できるだけ、まとめて洗濯するではなく、個人で洗濯。←要確認		
	(1) 会場で運営に携わる人全員がマスクを着用していることを確認する。 (2) 人員配置を必要最小限に絞る。（明確な業務のない人は来ない） (3) 講習・研修会に参加する全ての人（F A、ボランティア、会場、その他関係者）に健康チェックシートを提出してもらい健康状態チェックを行う。 (4) ③で体調が悪い人がいる場合は、どのようなポジションの人でもすぐに帰宅させる。		
3 時間中対応	(1) 帰宅後14日以内に運営に関わった人の中から感染者が出た場合は、F Aに報告する。また参加者全員にその旨を伝える。 (2) 帰宅後14日以内に参加者から感染者が出た場合は、F Aに報告する。また参加者全員にその旨を伝える。		
	(1) 原則としてマスクを着用する。屋外で人と十分な距離（少なくとも2 m以上）が確保できる場合には、マスクをはずすことができる (2) 往復の公共交通機関利用時にはマスクを避け、混んでいる車両を避けた (3) 窓を開ける等、換気がよくなる工夫をする。 (4) 切符を買つために使う指を限制し、その際に使用した指で顔や目を触らない。 (5) 電車・バス等において、常に他人と距離をとり、会話を控える。 (6) 目的地に到着後、特に握手、手すりなどを触った手を手洗い、消毒、うがいをする。 (7) 寄り道をせずに、できるだけ早く帰宅する。		
4 事後対応	(1) 帰宅後14日以内に運営に関わった人の中から感染者が出た場合は、F Aに報告する。また参加者全員にその旨を伝える。 (2) 帰宅後14日以内に参加者から感染者が出た場合は、F Aに報告する。また参加者全員にその旨を伝える。		
	(1) 原則としてマスクを着用する。屋外で人と十分な距離（少なくとも2 m以上）が確保できる場合には、マスクをはずすことができる (2) 往復の公共交通機関利用時にはマスクを避け、混んでいる車両を避けた (3) 窓を開ける等、換気がよくなる工夫をする。 (4) 切符を買つために使う指を限制し、その際に使用した指で顔や目を触らない。 (5) 電車・バス等において、常に他人と距離をとり、会話を控える。 (6) 目的地に到着後、特に握手、手すりなどを触った手を手洗い、消毒、うがいをする。 (7) 寄り道をせずに、できるだけ早く帰宅する。		
5 移動 (参加者・スタッフ)	(1) 感染対策実施のために必要な備品リストを作成し、それを施設担当者と共有の上、当該備品の用意について前日までに確認する。 感染対策実施のために以下備品を準備する。 (2) ①スタッフ用マスク（　個） ②アルコール消毒液（　個） ③液体石鹼（　個） ④ペーパータオル（　個） ⑤ゴミ袋 ⑥各自の飲料水用のボトル ⑦ドアストッパー		
6 備品確認 (感染予防対策)			

※このリストをもとに各FAが地域の実情に応じてカスタマイズする。

審判員・審判指導者用（試合参加時） 新型コロナウイルス対応版チェックリスト例

シーン	項目	チェック欄	備考
1 事前準備	(1) 審判チーム内において感染対策責任者を定め、競技会主管FAの感染対策責任者を把握する。		
	(2) 競技会・試合に参加する上での注意事項を審判員・審判指導者全員が理解する。（不安がある場合は参加を見送る）		
	(3) 日常から健康管理表を作成し、毎日健康チェックを行う。		
	(4) 未成人審判員の保護者が、競技会の会場、日時、対戦相手を理解しており、審判員の参加を了承している。（了承しない場合は無理に参加させない。）		
2 往復の移動	(1) マスクを着用する。		
	(2) 往復の交通公共機関利用時にはラッシュ時や混んでいる車両を避ける。		
	(3) 窓を開ける等、換気がよくなる工夫をする。		
	(4) 切符を買うために使う指を限定し、その際に使用した指で顔や目を触らない。		
	(5) 電車・バス等において、常に他者と距離をとり、会話を控える。		
	(6) 目的地に到着後、特にトイレ、手すりなどを触った手を手洗い、消毒、うがいをする。		
	(7) 寄り道をせずに、できるだけ早く帰宅する。		
3 試合前	(1) 審判員はウォームアップ実施以外の時はマスクを着用する。審判指導者は常にマスクを着用する		
	(2) 健康チェックシートを主管FAの感染対策責任者に提出する。		
	(3) 着替えを素早く済ませる。		
	(4) 更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開け放しにする		
	(5) 審判打合せは会場内の3密を避けた場所にて手早く済ませる。		
	(6) 更衣が終了したらすぐに更衣室を出る。		
	(7) 審判指導者は審判員に試合前、試合中、試合後ともに接触も会話もしない。会話が必要な場合、お互いにマスクを着用し距離を保ち、最小限の会話に限定する。		
試合関係者のコミュニケーション、給水等			
4 試合中	(1) 選手等との不要な接触を避ける。		
	(2) ピッチ上で選手と会話する際にも距離についてしっかりと配慮する。		
	(3) 第4の審判員は試合中もマスクを着用する。		
	(4) 第4の審判員は試合運営責任者等とのベンチでの距離を保つ。		
	(5) 試合の間に行なう飲水は自分専用のボトルを使用する。		
	(6) ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐いたり、手鼻をかまない。		
	(7) うがいした水をピッチ内に吐かない。		
ハーフタイム・交代・退場時、試合終了時の対応			
5 試合後	(1) 更衣室に戻る前に消毒や手洗い、うがいをする。		
	(2) 退席や退場の判定の際は、選手や監督と会話する必要が生じた場合は、距離に十分配慮し、必要最低限の会話に限定する。		
	(3) 怪我をした選手にむやみに接触しない。また、ピッチ外に当該選手を移動させる際は、おんぶやだっこを避け、担架を活用する。		
	(4) 試合後の選手との挨拶は行わない。握手もない。		
	(5) 試合後の審判員と審判指導者、及び審判員同士の返りミーティングはどちらも行わない。後日に別の方法（電話、メール、オンラインミーティング等）で行う。		
	(1) 更衣室は窓を開けっぱなしにし、更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。		
	(2) 着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。		
6 帰宅後の過ごし方	(3) シャワーの利用についてはローテーションを組んで交代で浴びる等の工夫をする。		
	(4) 試合会場のルールに従い、ゴミを密封した状態で処分するか、持ち返る。		
	(1) 手洗いうがいを徹底する。		
	(2) バランスの良い食事をとる。		
7 事後対応	(3) 検温と共に行動記録を書く。		
	(4) 早めに就寝し、十分な睡眠時間を確保する。		
	(1) 帰宅後14日以内に感染が発覚した場合は、主管 FA の感染対策責任者に速やかにその旨伝える。		

審判員・審判指導者名： _____

フットボールセンター管理FA用 新型コロナウイルス対応版チェックリスト例

シーン	項目	チェック欄	備考
1 全般的な事項	(1) 感染防止のためのチェックリストを施設内の適切な場所（管理事務所や各施設の入口等）に掲示すること		
	(2) 各事項がきちんと遵守されているか施設内を定期的に巡回・確認すること		
	(3) 障がい者や高齢者など利用者の特性にも配慮すること		
	(4) 利用者より提出を求めた書面について、保存期間（少なくとも1月以上）を定めて保存しておくこと		
	(5) 利用者の感染症発症や、地域の感染拡大の可能性への対応方針について、施設の立地する自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておくこと		
2 施設の予約時の対応 (利用者に求ること)	(1) 利用者が以下の事項に該当する場合は、利用の見合ひを求めるごと（利用当日に書面で確認を行う） ・体温がよくなき場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合） ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合 ・過去14日以内に政府から入国制限、入後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合		
	(2) マスクを持参すること（受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）		
	(3) こまめな手洗い（アルコール等による手指消毒を実施すること）		
	(4) 他の利用者、施設管理者等との距離（できるだけ2m以上）を確保すること（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）		
	(5) 利用中に大きな声で会話、応援等をしないこと		
	(6) 感染防止のために施設管理者が決めた他の措置の遵守、施設管理者の指示に従うこと		
	(7) 利用終了後 2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、施設管理者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること		
3 当日の受付時の対応	(1) 受付窓口には、手指消毒薬を設置すること		
	(2) 発熱や軽度であるて咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛けること		
	(3) 人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること		
	(4) 利用者の距離を保てて並ぶうに目印の設置等を行うこと		
	(5) 受付を行うスタッフには、マスクを着用させること		
	(6) インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付の一層の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるようすること		
	(7) 利用者が密な状態になるおそれがある場合は、入場制限を行うこと		
	(8) 利用者から健康チェックシートの提出を求めるごと		
	(9) 利用者がマスクを準備しているか確認すること		
	(10) 施設利用前後のミーティング等においても、三つの密を避けること		
手洗い場所	手洗い場所		
	(1) 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹼を用意すること		
	(2) 「手洗いは30秒以上」等の掲示すること		
	(3) 手洗い後に手を拭いためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（利用者にマイタオルの持参を求めてても良い。）		
更衣室、休憩スペース	(4) 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒用薬を用意すること		
	(1) 広さにはゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避けること（障がい者の介助を行う場合を除く）		
	(2) ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する等の措置を講じること		
	(3) 室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、こまめに消毒すること		
	(4) 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮すること		
洗面所	(5) スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをすること		
	洗面所		
	(1) トイレ内の確数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒すること		
	(2) トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること		
	(3) 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹼を用意すること		
4 準備すべき事項の対応	(4) 「手洗いは30秒以上」等の掲示すること		
	(5) 手洗い後に手を拭いためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（利用者にマイタオルの持参を求めてても良い。）		
	スポーツ用具の管理		
	(1) 利用者によるスポーツ用具を持参してもらうよう周知すること		
観客の管理	(2) やむを得ず共用するスポーツ用具について、手が頻回に触れる箇所を工夫して最低限にした上で、こまめに消毒すること		
	(3) スポーツ用具の貸出を行う場合は、貸出を行った利用者を特定できる工夫をすること		
	(4) 貸出前後に消毒すること		
	観客の管理		
運動・スポーツを行う施設の環境	(1) 施設に観客も入場する場合には、観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとること		
	(2) 大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知すること		
	運動・スポーツを行う施設の環境		
施設の入口	(1) 換気設備を適切に運転することや、定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと		
	(2) 体育館の床をこまめに清掃すること		
	(3) 体育館等の施設においても、密な状態とならないようにすること		
ゴミの廃棄	施設の入口		
	(1) 手指の消毒設備を設置すること		
	(2) 施設利用時の利用者が遵守すべき事項のチェックリストを掲示すること		
清掃・消毒	ゴミの廃棄		
	(1) 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用すること		
	(2) マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹼（ポンプ型の液体または泡石鹼）と流水で手を洗い、手指消毒すること		
その他	清掃・消毒		
	(1) 市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃すること		
	(2) 通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を、始業前、終業後に清拭消毒すること		
	その他		
その他	(1) イベント主催者等が運動・スポーツの際の栄養補給等として飲食物を利用者に提供する際は、以下などに配慮して適切に行うこと		
	(2) 利用者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行つう声を掛けること		
	(3) スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・瓶・缶や使い捨ての紙コップで提供すること		
	(4) 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること		

(参考) 各団体が発出する各種方針・ガイドライン等

発行元	方針・ガイドライン等
世界保健機関 (WHO)	Considerations for sports federations/sports event organizers when planning mass gatherings in the context of COVID-19: interim guidance (英語)
厚生労働省	「新型コロナウイルス感染症対策基本的対処方針」 「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」
内閣官房	新型コロナ感染症対策本部資料 (内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室 HP) 業種別ガイドライン一覧 (内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室 HP)
文部科学省	学校再開に向けて (Q&A、通知等)
スポーツ庁	「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」 (2020.5.14)
日本スポーツ協会 日本障がい者スポーツ協会	「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドラインについて」 (2020.5.14) 「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン（改訂版）」 (2020.5.29)
日本スポーツ協会	スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について
日本プロサッカーリーグ (Jリーグ)	Jリーグ 新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン
サッカー・ブンデスリーガ	TASK FORCE SPORTMEDIZIN/SONDERSPIELBETRIEB IM PROFIFUSSBALL (独語)

RESPECT

大切に思うこと

サッカーがある日常が戻りつつあります。

大好きなサッカーができるという当たり前のことが、
どんなに素晴らしい、価値のあることなのか、
あらためて気づいた人も多いのではないでしょうか。

新型コロナウイルス感染症は恐ろしい病気です。
しかし、怖いのはウイルスだけではありません。
風評やデマ、誹謗中傷——
それに翻弄されることもまた、危険なことです。
感染者や医療従事者などに対する偏見や差別も、
決してあってはなりません。
私たちの命や生活を支えてくれる人たちに、
感謝とエールを送りましょう。

感染症への不安からサッカーへの参加を
迷っている人もいるでしょう。
今は自粛しようという気持ちになるのも当然のことです。
自分と異なる考えを持った人たちを
排除したりせず、理解し、尊重しましょう。

私たちは
スポーツを愛する仲間なのだから。

みんなが安心してプレーできる環境づくりを
目指していきたい。

大切なサッカーを、
自分たちの手で守っていきたい。

そのために、リスペクト——。
関わりある人々やすべてを
大切に思うこと。

